安息日聖書教科

# 伝記的な祝福

Vol. 94, No.1
2018 年 1 月 -3 月

# 目次


天への候補者 5
試練の謎 10
ヨブの忍耐 15
栄光はただ神にのみ 20
霊的な危機の時 26
残りの民を新たに生かす 31
活動的な信頼 36
勝利に満ちた家族を計画する 41
弱さから強さへ 47
主に求める 52
捧げられた子供 57
イカボデからエベネゼルまで 62
イスラエルの最後の裁き 67


**安息日聖書教科**は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔　〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。


セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部(P.O.Box 7240 Roanoke,Virginia 24019-0240,U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.93,No.4

編集＆発行：
ＳＤＡ改革運動日本ミッション

〒368－0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ケ久保1607－1

TEL : (0494) 22-0465

FAX: (0494) 40-1045

URL :
http//www.4angels.jp

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト：Adobe Stock pp. 25, 72.Good Salt on the front cover and Map Resources on pp. 4, 25, 46, 72.

*Printed in Japan*

# まえがき

「聖書の中で、教育上最も価値のある部分はその伝記である。これらの伝記は、絶対にありのままの生活を描いてある点において他の伝記と類を異にしている。有限な人間の頭脳では、他人の行為を、何から何まで、正しく解釈することはできない。人の心を読み、動機と行為のかくれた源を見分けられる神よりほかには、だれも絶対にまちがいなく品性を描くことも、人生のありのままの姿を伝えることもできない。このような描写はただ神のみ言葉である聖書の中にだけみられる。

聖書に、行為は人格のあらわれであると教えられているが、これほどはっきりした真理はない。人生の経験の大部分は、われわれ自身の思想や行為が実を結んだものである。」(教育 164)

人類歴史のすべての時代において、個々の男女は、品性の高潔さという偉大な模範を同胞に残してきました。社会における状況や状態は当然、時の発展と共に変化しますが、どの社会も原則にどのように従うべきかという知的で勇気ある自己否定的な実践なくしては、精神的にも、道徳的にも、あるいは霊的にも前進できませんでした。

霊感を受けた伝記は、それらが真実であるという点において独特です。ある危機が神の民の歴史の中で生じると、忠実で信頼のできる個人が、何度も神の民を神へ連れ戻した神のみ事業に対する忠誠と献身という資質を忠実に現わしてきました。

「もしわたしたちの良い聖書が霊感を受けていない人々によって記されたのであれば、それは非常に違った様相で提示され、過ちの多い人間、すなわち、生来の弱さや狡猾な敵の誘惑と戦っている人々にとって失望に満ちた研究課題となったことであろう。しかし、それはありのままであり、わたしたちは聖書の歴史の中に、顕著な品性の宗教的な経験について、正確な記録を持っている。」(教会への証 4 巻 10)

この地上における忠実な神の民の初期の数世紀は、神の恵みと知識においてわたしたちが成長するために、豊かな洞察を提供しています。これらの様々な伝記は非常に有益ですが、それらのいくつかは他のものほど詳しく説明されていません。この理由により、今年の第 1 四半期の間、全世界の安息日学校の生徒たちは特に、エノク、ヨブ、ギデオン、ハンナ、サムソン、そしてサムエルの経験に焦点をあてることによって、「伝記的な祝福」を学びます。神の子らの間でなされる神の驚くべき働きの方法を観察することによって、わたしたちの信仰を強めるための価値ある教訓を探っていきます。

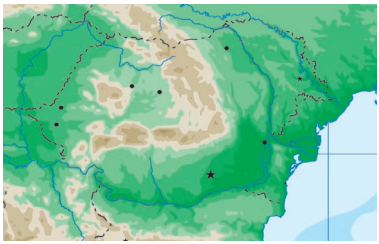
「わたしたちはまさに聖書がわたしたちに与える通りの教訓を必要としている。なぜなら、罪の啓示と共にそれに続く懲罰が記録されているからである。罪ある者の悲しみと悔悟、そして罪に病んだ魂のうめき声が過去からわたしたちのところまで伝えられ、今と同様に当時、人が神の許しの憐れみを必要としていたことを告げている。それはわたしたちに、神が犯罪を罰するお方であると同時に、悔い改めた罪人を哀れみ、許されることを教えている。」(同上 12)

世界総会安息日学校支部

安息日 2018 年 1 月 6 日

## ルーマニア、タルグ・ムーレスにおける教会建設プロジェクト

ルーマニアは南東ヨーロッパに位置する君主国家で、黒海、ブルガリア、ウクライナ、ハンガリー、シベリア、そしてモルドバに面しています。面積は 238,391 平方キロメートル（91,699 平方マイル）で、温暖な大陸気候です。人口は 1,994 万人で、ヨーロッパ連合の中で 7 番目に人口の多い国です。首都であり最大の都市はブカレストで、ヨーロッパ連合の中では 6 番目に大きい都市になります。2011 年の時点で人口は 1,883,425 人でした。



人口の圧倒的大多数は自らをクリスチャンとしています。2011 年の国税調査では、回答者の 81.0%が、ルーマニア・オーソドックス教会に属するオーソドックス・クリスチャンとして申告しました。他の宗派には、プロテスタント（4.8%）、ローマ・カトリック（4.3%）、そしてギリシャ・カトリック（0.8%）となっています。

およそ 100 年前、タルガ・ムーレスにあるアドベンチスト教会の 16 人のメンバーが戦争に反対する立場を取ったために除名されました。これにより、タルガ・ムーレスは、改革運動の地図において、先駆的な都市のひとつとなっています。当時、彼らが購入した礼拝堂は、後に共産主義者たちに没収されました。共産時代の激しい迫害にもかかわらず、兄弟たちは個人宅で主を礼拝し、秘密警察によって捕らえられた時には重い罰金を支払いました。

1990 年に、ルーマニアが再び宗教的に自由な国となったとき、兄弟が礼拝のための家を買いました。続く数年の間に、地元の教会の集会のほか、この家は、多くの健康講座や、栄養セミナー、料理教室などに利用され、それぞれ平均して 250 人から 300 人の人々に伝えてきました。

今日、タルガ・ムーレスは依然として、ルーマニア連合の中心的な部分である南アーディル・フィールドにおいて、わたしたちの教会の重要なセンターです。142,000 人を越える市民のいるタルガ・ムーレスは、わたしたちの教会のメンバーがかなり住んでいる多くの村々に囲まれています。

新しい礼拝の家が必要になりました。それを実現するためにここの兄弟たちは一生懸命働いており、屋根を建設するところまで行きました。しかし、今、資金が尽きている状態です。このため、皆さんの支援を心から感謝いたします！

皆さんがこの新しい年の第一安息日献金に惜しみない献金を検討してくださるとき、主が皆さんを豊かに祝福してくださいますように。

ルーマニア連合の皆さんの兄弟姉妹より

# 天への候補者

**「信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。」（ヘブル 11:5）**

「自分自身はどんなに無力でも、神のみ言葉に信頼するときに 全世界の勢力に対抗し得た例は少なくない。純潔な心の持ち主で、聖なる一生を送ったエノクは、信仰を堅 く保って、腐敗とあざけりに満ちた世代に対して義の勝利を納めた。」（教育 300）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 79–85

## 日曜日　12 月 31 日

**1. 道徳的堕落の時代に**

**a. アダムから７代目の人の経験はどのように要約されていますか。また彼の環境は、今日わたしたちの環境と比べてどうでしたか（創世記 5:18–22）。**

「エノクが非の打ち所のない義の生涯を送った時代ほど、道徳的な闇の濃い時代はかつてなかったし、これからも決してないであろう。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]1 巻 1088）
「エノクは、わたしたちと同じように誘惑にあった。彼はわたしたちを囲んでいるよりも義に対して有効的な社会に囲まれていたのではなかった。彼が呼吸していた大気は、わたしたちの大気と同じように、罪と堕落に汚染されていた。それでも、彼は聖潔な生涯を送ったのである。」（教会への証 1 巻 122）
「わが兄弟姉妹がた、わたしたちは、人気のある潮流に乗って漂うべきではない。わたしたちの現代の働きは、世から出て、分離することである。これだけがエノクのように、神と共に歩むことのできる道である。」（同上 5 巻 535）
「エノクが神と共に歩んだのは、恍惚状態や幻の中ではなかった。そうではなく、自分の日常生活のすべての義務においてであった。彼は自らを全く世界から遮断して、隠遁者となることをしなかった。なぜなら、彼にはこの世において、神のためになすべき働きがあったからである。」（同上 8 巻 329, 330）

**2. 健全な神への恐れ**

**a. 神とのエノクの経験について、何がわたしたちを鼓舞すべきですか（創世記 5:23, 24）。**

「エノクが着実にご自分に従い、悪を忌み嫌い、自分が主のみ旨を完全になすことができるように、天の知識を真剣に求めたがゆえに、主は彼を愛された。彼はますます、神、すなわち自分が恐れ、敬い、崇敬するお方に、自らを密接に結び付けることを切望した。神はエノクが他の人のように死ぬことを許されず、死を見ずに彼を天へ連れていくためにご自分の御使たちを送られた。」（霊的賜物 3 巻 57）

「300 年の間、エノクは、天と調和できるように心の純潔を求めた。……

このような交わりに、神はわたしたちを招いておられる。主の再臨の時に人々からあがなわれる人々の品性の聖潔は、エノクの聖潔と同じでなければならない。」（福音宣伝者 53, 54）

**b. 歴史上、最初の預言者に何が示されましたか。なぜ彼にはそのような幻が委ねられたのですか（ユダ 14, 15）。**

「エノクは人類の中の最初の預言者であった。……彼の生涯はクリスチャンの一貫性の見本であった。聖なる唇だけが、告発と裁きにおいて神の言葉を語るべきである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]1 巻 1088）

**c. クリスチャンの時代に、どのような態度が特に神の怒りを引き起こしますか（ユダ 5–8, 10, 11, 16; マタイ 11:20, 23, 24）。**

「ソドムの運命は、公然と罪を犯す人だけでなく、天からの光と特権を軽んじるすべての人々に対する厳粛な訓戒であると救い主は警告された。……

審判の日には、キリストの愛を知りながら、罪の世の快楽を選んで離れていった者よりは、平原の町々のほうが耐えやすいことであろう。」（人類のあけぼの上巻 173）

### 3. わたしたちの見方を維持する

**a. エノクはどのようにして、自分の純潔を維持しましたか（コリント第一 15:33; テトス 1:15, 16）。**

「〔エノクは〕悪人たちと共に住まなかった。彼はソドムを救おうと考えて、ソドムに居を構えなかった。彼は自分と自分の家族をできるだけ純潔な大気のあるところへおいた。それから、ときどき彼は神から与えられたメッセージをもって世の住民のところへ出ていった。彼が世に訪問することは毎回彼にとって苦痛であった。彼は罪のらい病について何かを見て、理解した。自分のメッセージを宣布した後、彼はいつも警告を受け入れた何人を連れて自分の引っ込んだ場所へ連れて行った。これらの人々のうち、ある者は勝利者となり、洪水が来る前に死んだ。しかし、ある者はあまりにも罪の堕落した感化の中で生きてきたため、義に耐えることができなかった。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 1088）

「自分の働きがますます大きく、ますます差し迫ってくると、〔エノクの〕祈りはますます絶えることなく真剣なものとなった。彼はある一定期間、一切社会から自らを遮断することを続けた。人々の間に一定期間いて、教えと模範によって彼らを益するために働くと、彼は一人で、神だけがお与えになることのできる聖なる知識に飢え渇いてある期間を過ごすために身を引くのであった。」（福音宣伝者 52）

**b. わたしたちはエノクの態度から何を学ぶことができますか（ヘブル 11:5）。**

「キリストによって示された測り知れない無限の神の愛は、〔エノク〕の昼夜の瞑想の課題になった。彼は、自分の力の限りを尽くして、一緒に住んでいる人々にその愛を示そうとした。……

将来の光景が自分の目の前に示されたとき、エノクは義の説教者となり、警告の言葉を聞くすべての人に神のメッセージを担った。……

神の僕と共に働いた神の力が聞いた人々に感じられた。ある人々は警告に注意を払い、自分の罪を捨てた。しかし、大多数は厳粛なメッセージをあざ笑った。神のしもべたちは、終わりの時代に似たメッセージを担わなければならない。そして、それもまた、不信とあざけりを持って受け入れられることになる。」（教会への証 8 巻 329, 330）

**4. キリストに似たものになる**

**a. どのような意味において、エノクの目標は、今日わたしたちのための模範なのですか（ガラテヤ 6:8, 9）。**

「一年ごとに、人間の罪深さの潮はますます深くなり、神聖なさばきの雲がますます暗くたれこめた。しかし、信仰の証人であるエノクは、自分の道を離れず、警告し、嘆願し、教え、罪深さの潮を押し返し、報復のかんぬきを止めたままにしようと奮闘した。

その時代の人々は、エノクが金銀をたくわえず、この世で財産を築こうとしないのを、愚かなことだとちょう笑した。 しかし、エノクの心は永遠の宝に注がれていた。」（教会への証 8 巻 330）

**b. わたしたちの日々の決定を何が導くべきですか（コリント第二 5:7; ホセア 14:9）。**

「存在する悪が大きくなるほど、〔エノクの〕神の家を切望する思いはますます熱烈になった。地上にいる間に、彼は、信仰によって光の王国に住んだ。」（教会への証 8 巻 330, 331）

「彼〔エノク〕 は自分のかたわらに神を見たのであろうか。信仰によってのみである。彼は主がそこにおられることを知っていた。そして確固として真理の諸原則につき従った。わたしたちもまた、神と共に歩むべきである。わたしたちがこうするとき、わたしたちの顔はこのお方のご臨在の輝きによって明るくされる。そしてわたしたちが互いに会うとき、このお方の力について語り、神をほめたたえよ、と言うのである。主はいつくしみ深く、主の言葉はいつくしみ深い。

時の終わりに移される人々は、地上で神と交わっている人々である。自分の生涯がキリストと共に神のうちに隠されていることを表す人々は、いつでも自分のあらゆる生活上の行為においてこのお方を表す。利己心はその根から断ち切られる。

人類の弱さを自覚し、人がどこで自己満足のうちに失敗したかを見よう。わたしたちはその時、神がわたしたちに望まれる通りのもの―純潔で、高尚で、聖化されたもの―になりたいという願望に満たされるようになる。……

神に似たものになるというのが、魂の一つの願いとなる。

これがエノクの心を満たした願望であった。……彼は、あたかも事態を管理するのに完全な資格があるかのように、自分自身の道を計画したり、自分自身の意志を打ち立てたりしなかった。彼は自らを神聖なすがたに順応させようと奮闘した。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]1 巻 1087）

## 木曜日　1月4日

**5. 精錬する過程**

**a. エノクの目的にあずかるすべての人々の最終的な勝利を描写しなさい（マタイ5:8）。**

「神は、主だけがお与えになることのできる助けを真剣に求めている人々に授けたいと願っておられる祝福に満ちた天を持っておられる。エノクが神と共に歩んだのは、信仰のうちにイエスを眺め、このお方に求め、語られた一つ一つの言葉が実証されることを信じることによってであった。彼は神のかたわら近くにとどまり、このお方のすべての言葉に従った。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1巻1087）

「自分が大切にしている偶像を持ち、大事にしている罪を持っていることに気づいている人が、なんと少ないことであろう！神はあなたが盲目になっているかもしれない罪をご覧になり、剪定のナイフを深く打ち込み、これらの大事にしている罪をあなたから分離させるために働かれる。あなたがたはみなこの精錬の過程を自分のために選びたいのである。自己を十字架につけることに服するのは、あなたにとってなんと難しいことであろう。しかし、働きが全く神に、すなわちわたしたちの弱さとわたしたちの罪深さをご存じのお方に委ねられるとき、このお方は願わしい結果をもたらすための最善の方法を取って下さる。エノクが神と共に歩んだのは、継続的な戦いと単純な信仰を通してであった。あなたはまったく同じようにすることができる。あなたは徹底的に改心し、変えられ、本当に神の子となり、このお方のみ旨の知識を楽しむだけでなく、あなたの模範によって、他の人々を、同じ謙遜な従順と献身の道に導くことができるのである。」（教会への証3巻543）

「〔エノクは〕堕落した時代に生き、道徳的な汚染は彼の周りに満ちていた。しかし、彼は自分の思いを献身へと、純潔を愛するように訓練した。彼の会話は天の事柄に関することであった。彼は自分の思いがこの水路に走るよう教育した。そして、彼は神聖なお方の印章を帯びていた。彼の顔はイエスのみ顔に輝く光で明るくされていた。」（同上2巻122）

## 金曜日　1月5日

**個人的な復習問題**

**1. エノクの時代について、わたしたちは何を悟るべきですか。**
**2. ソドムの運命から、わたしたちは何を学ぶべきですか。**
**3. エノクの自分の環境についての方針を説明しなさい。**
**4. エノクは思いにどの目的をもって、神のみ言葉を研究しましたか。**
**5. 今週の教科は、わたしたちにどのように希望をもたらしますか。**

# 試練の謎

**「彼はわたしの歩む道を知っておられる。彼がわたしを試みられるとき、わたしは金のように出て来るであろう。」（ヨブ 23:10）**

「苦しんでいる魂は、逆境下で、神のうちに忍耐強く、信頼し、勝利する者とされる。」（牧師への証 355）

推奨文献：　青年への使命 68-70, 86-90;
初代文集 111–114

## 日曜日　1月７日

**1. 無実の標的**

**a. ヨブの品性について何と記されていますか（ヨブ 1:1; 29:15; 31:6）。**

「ヨブは自分の家庭の外にいる人々に対する自分の義務をなおざりにしなかった。彼は慈愛に満ち、親切で、他の人々の利益について思いやり深かった。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1881 年 8 月 30 日）

**b. この世で、ひそかに隠れて働いている問題の多い感化力を説明しなさい。そして、なぜわたしたちはそれらに気づく必要があるのかを説明しなさい（エペソ 6:12）。**

「われわれの大いなる敵サタンは、アダムの時代から今日に至るまで、圧迫と破壊のために力をふるってきた。そして今、彼は、教会に対する最後の戦闘の準備をしている。イエスに従おうとする者はみな、この残忍な敵と戦わねばならない。キリスト者が、模範であられるイエスにならえばならうほど、サタンの攻撃の的になることは確実である。」（各時代の大争闘下巻 250）
「もし、わたしたちの目が善悪の代理人が働いているのを見るために開かれることができるなら、軽率になったり、うぬぼれたり、あざけったり、冗談を言ったりすることはなくなるであろうに。」（教会への証 6 巻 41）

**2. 親の用心**

**a. 善悪の間の大争闘に関してヨブの用心から、親はどの深刻な警告を学ぶべきですか（ヨブ 1:4, 5）。**

「親がウズの人から不動と献身の教訓を学ぶことは良いことである。ヨブは……自分自身の家族の救いのために熱心に労した。自分の息子や娘たちの宴のさなかに、彼は自分の子供たちが神を不快に思わせているかもしれないと思って震えた。家庭の忠実な祭司として、彼は彼ら一人びとりのために犠牲を捧げた。彼は罪の罪深い性質を知っていた。そして自分の子供たちが神聖なご要求を忘れたかもしれないという思いが、彼らのための仲保者として、彼を神のみ許へ行かせた。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1881 年 8 月 30 日）

「あなたは甚大な責任を説教者の上に転がし、彼に自分の子供たちの魂の責任をとらせる。しかし、あなたは親として自分自身の責任を感じていない。……あなたの息子や娘たちは、あなた自身の模範とだらしのない教えによって堕落した。そして、この家庭の訓練の欠如にもかかわらず、あなたは牧師に、あなたの日常の働きに対抗して、彼らの心と生活を徳と敬神へと訓練するという素晴らしい偉業を成し遂げることを期待している。牧師が、忠実で愛情深い訓告と、忍耐強い規律と、魂を更生させ、救うための熱心な祈りにより、教会のためにできることをすべてなした後、なお成功しないと、父親や母親は、自分自身の怠慢のゆえであるかもしれない時に、しばしば自分の子供たちが改心しないからと言って彼を責める。重荷は親に負わせられている。そして、彼らは神が自分たちにお委ねになった働きに取り掛かり、忠誠を尽くしてそれを果たすであろうか。彼らは、へりくだり、悔いた辛抱強い方法で働きながら、自分自身が高く上げられた標準に達し、自分の子供たちを自分たちと共に上に引き上げるために、前へ、上へ向かって進むであろうか。」（教会への証 5 巻 494, 495）

「規則に規則、教訓に教訓、あそこに少し、ここにも少しというのが親の働きである。悪い傾向を、感情的にではなく、愛をもって正しなさい。子供たちは、もし父親と母親が自分の働きを忠実になすならば救われることができる。……

わたしたちは子供たちが模倣してほしいと思う教訓を教えている。もしわたしたちが、自分の子供たちに慎み深く、純潔な思いを持ち、高尚であることを望むならば、自分自身がそうでなければならない。もしわたしたちが、神の子であると公言しながら、わたしたちの短気、苛立ち、また欺瞞が、サタンの子であることを示すなら、わたしたちは詐欺師であり、わたしたちの子供は、わたしたち以上の者とはならない。親のあらゆる努力は、クリスチャン品性の完全へ向かって前進するためのものであるべきである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1885 年 4 月 14 日）

**3. 悲劇が襲う……**

**a. ヨブに対する悪魔の怒りを駆り立てたものは何ですか（ヨブ 1:6–11）。**

**b. ヨブの忠誠にもかかわらず、彼の地上の財産や彼の子供たちの現世の命に関して、すぐにどのような一連の衝撃が訪れましたか（ヨブ 1:12–19）。**

「すべての苦しみが、正道から外れた生活の結果なのではない。ヨブがわたしたちの前に、主がサタンに苦しめることを許した人として示されている。敵は彼から持っているすべてのものをはぎ取った。彼の家族のきずなは切られた。彼の子供たちは彼から取り去られた。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1899 年 6 月 21 日）

**c. これらの試練に対してヨブがどのように反応したかということから、わたしたちは何を学ぶことができますか（ヨブ 1:20–22）。**

「キリストはわたしたちの導き手、また慰め主であられ、わたしたちのあらゆる苦難の中でわたしたちを慰めて下さる。このお方がわたしたちに飲むための苦い一口を賜わるとき、このお方はまたわたしたちの唇に祝福の杯を持っておられる。このお方は心を屈服で満たし、信じることに喜びと平安を満たし、そしてわたしたちが従順に、わたしの思いではなく、主よ、あなたのみ思いがなるようにしてくださいと言えるようにしてくださる。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 270）

**d. 全宇宙の前でサタンのよこしまな告発に直面してもなお、なぜわたしたちは希望を持つことができますか（ヨブ 2:1–6）。**

「サタンの全勢力のうちに、神から来る知恵に単純な確信をもって信頼する魂を無力にする力はない。

キリストはわたしたちの力のやぐらであられる。そして、サタンにはへりくだった思いをもって神と共に歩む魂をしのぐ力を持つことはできない。……キリストのうちにはすべての誘惑された魂のために完全で満ち足りた助けがある。危険はあらゆる道で攻撃するが、全宇宙は、だれ一人耐えられない誘惑に会うことがないように、防備して立っている。」（今日のわたしの生涯 316）

**4. 信仰と知恵をもって答える**

**a. ヨブに対する悪魔の次の攻撃を説明しなさい。またウズの忠実な人がどのように答えたかを説明しなさい（ヨブ 2:8–10）。**

「ヨブはこの世の財産をすべて奪われた。そして肉体においてひどく苦しめられたので、親せきや友人たちに忌み嫌われた。それでも、彼は自分の高潔と神への忠誠を保った。」（教会への証 4 巻 525）

**b. ヨブの悲劇的な状況の恐るべき深さを、何が表わしていますか（ヨブ 2:11–13）。**

**c. ヨブは自分の窮状について、何を悟りましたか。また使徒ペテロはわたしたちの益のためにこれらの思想を、どのようにこだまさせていますか（ヨブ 23:8–10; ペテロ第一 1:3, 6, 7）。**

「わたしたちが試練に耐えるように召されているという事実が、主イエスがわたしたちのうちに何か非常に尊いもの、このお方が発達させたいと望んでおられるものをご覧になっていることを証明している。もし、このお方がわたしたちのうちにご自分のみ名に栄光を帰すことができるようなものを何もお認めにならなければ、このお方はわたしたちを精錬するための時間をお取りにならないことであろう。わたしたちはいばらを剪定するために特別な努力を払わない。キリストは価値のない石をご自分の炉の中には投げ入れない。このお方が試されるのは、価値のある鉱石である。」（同上7巻 214）

**d. なぜ神は、わたしたちが試練の価値を理解することを望んでおられるのですか（ペテロ第一 4:12, 13）。**

「炉の炎は滅ぼすためではなく、精錬し、高尚にし、聖化するためである。試練がなければ、わたしたちはそれほど神とこのお方の助けの必要を感じることはない。そしてわたしたちは誇り高く、自己に満足するようになる。……

あなたの天父はあなたを愛しておられる。そして、このお方はあなたには厳しいと思われる試練によって、あなたをご自分のみ許へ引き寄せられるのである。」（同上8巻 123, 124）

「わたしたちは最悪に見える試練を嘆かわしく語ることによって、神を辱めるべきではない。教育者として受け取るすべての試練は、喜びを生み出すようになる。」（同上6巻 365）

## 木曜日　1月11日

**5. より大きな祝福のために準備する**

**a. 鋭く切りつけるような予期せぬ試練のただ中で、主はわたしたちに何を心にとめているよう望んでおられますか（エレミヤ 29:11; ヨハネ 16:33）。**

「神は、神の子らを彼らの知らない道に導かれるが、神は、神に頼るものを忘れたり、見捨てたりなさらない。神はヨブに苦難がのぞむのをお許しになった。しかし、神は、彼をお見捨てにならなかった。……われわれの信仰を最もきびしく鍛え、神は、あたかもわれわれを見捨てられたのかと思わせるような試練そのものが、実は、われわれがすべての重荷を主のみもとにおろして、それに代えて彼がお与えになる平和を味わうことができるように、われわれをキリストのそば近くに導くべきである。

神は、常に神の民を悩みの炉の中で試みてこられた。クリスチャン品性という純金から不純物が取り除かれるのは、炉の火の中においてである。イエスは、この試練を見守っておられる。彼は、尊い金属をきよめて、彼の愛の輝きを反映させるのには、何が必要であるかを知っておられる。神は、綿密なきびしい試練によって、そのしもべたちを訓練なさる。神は、ある人が神のみわざの進展のために役立つ能力を持っているのを見られて、そのような人々をためされる。神は、摂理のうちに、彼らの品性をためす地位に彼らをおいて、彼ら自身でも気づかなかった欠点や弱点をあらわされる。神は、彼らがこれらの欠点を直して、奉仕にふさわしいものになる機会をお与えになる。神は彼ら自身の弱さを示して、神に頼ることをお教えになる。なぜならば、神が彼らの唯一の援助者であり、保護者だからである。こうして、神の目的は達成される。彼らには、大目的達成のための教育、訓練、鍛練、準備などが与えられる。彼らの力は、そのために与えられたのである。」（人類のあけぼの 上巻 127, 128）

## 金曜日　1月12日

**個人的な復習問題**

**1. 一瞬一瞬、大争闘を意識することは、どのようにわたしたちに影響を与えますか。**
**2. 大争闘が激しくなるにつれ、親は何を悟るべきですか。**
**3. ヨブは自分への攻撃に対して、なぜ比較的落ち着いて応じることができたのですか。**
**4. 次にわたしの道に予期せぬ試練が訪れたとき、わたしは何を思い出すべきですか。**
**5. なぜわたしたちは、もしもっと熟慮した方法で試練を見るならば、成長するのですか。**

# ヨブの忍耐

**「忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている。」（ヤコブ 5:11 上句）**

「〔神は〕試練があなたにおとずれることをお許しになった。それは、試練を通して、あなたが平和の義の実を経験することができるためである。」（教会への証 3 巻 416）

推奨文献：　教会への証 5 巻 341–348

## 日曜日　1 月 14 日

**1. 雲のうしろにある希望**

**a. 人であるので、ヨブは自分の窮状について、どのように感じましたか（ヨブ 3:1–3, 9–11, 20–22）。**

**b. 困難な時に、わたしたちはみな何を考えるべきですか（ヨブ 5:17–19）。**

「われわれが聖霊に欠けていることを感じる時こそ、信仰を働かせるべき時である。厚い黒雲が心を閉ざすように思われるそのときに 、生きた信仰によって、暗黒をつらぬき、雲を散らさなければならない。」（初代文集 151, 152）

「イエスはすべての打たれた者に、いやしのわざをもって来られる。失望、苦痛、苦難の生涯は、主の臨在の尊い啓示によって明るくされるのである。

神はわたしたちが傷つき破れた心をもって無言の悲しみに圧倒されるままに放置しておかれない。神はわたしたちに目をあげて、愛のやさしいみ顔を見るように望まれる。聖なる救い主は、涙で目がくもって、主を見分けられない多くの者のそばに立たれる。主はわたしたちの手をにぎり、単純な信仰をもって主を見るようにと、また、わたしたちが主に導いていただきたいと願うようになることを望んでおられる。主のみ心はわたしたちの苦しみ、悲しみ、試練にむかって開かれている。主は永遠の愛をもってわたしたちを愛し、わたしたちを慈愛をもって囲まれる。わたしたちは主のことを心に思いつづけ、一日じゅう、その慈愛をめい想することができる。主は魂を日ごとの悲しみと困惑の上に引きあげ、平和の国に入れられるのである。」（祝福の山 14, 15）

**1. わたしたちはだれの心を探る傾向があるか**

**a. ヨブはなぜ、自分の心を探ろうとしたのですか（箴言 26:2; ヨブ 9:1–4; 10:1, 2）。**

「人生の経験の大部分は、われわれ自身の思想や行為が実を結んだものである。」（教育 164）

**b. わたしたちが予期せぬ苦難に陥るとき、なぜ自己吟味というヨブの模範に従うことが賢明なのですか（コリント第二 13:5; 詩篇 139:23, 24）。**

「もし、各人が自分自身の心からイエスを締め出しているどのような罪が潜んでいるかを調べ、認めるなら、彼は他の人々を自分自身よりもすぐれたものとしてすぐに認めるようななすべき働きを見出すようになる。彼はもはや自分自身の目に梁があるときに、兄弟の目の中にあるちりを取ろうとはしなくなる。」（ｾﾌﾞﾝｽﾃﾞｰ・ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｽﾄの外国伝道のﾋｽﾄﾘｶﾙ・ｽｹｯﾁ 213）

**c. 他の人々の苦痛の原因をすぐに裁こうとすることに対して、なぜイエスはわたしたちに警告しておられるのですか（ルカ 13:1–5）。**

**d. ヨブの友達が彼の苦痛を誤って判断したときのヨブの反応を説明しなさい（ヨブ 16:1–3）。**

「さらにまた、ヨブの杯にはもっと他のにが味が加えられた。逆境は罪の報いであるとしか考えることのできない人たちは、傷つき重荷を負っているヨブを、お前が悪いことをしたからだと非難して、その苦しみを増し加えた。」（教育 174, 175）

「わたしたちの世には悪があるが、すべての苦しみが正道から外れた生涯の道の結果なのではない。主がサタンに苦しめることを許された人として、ヨブがはっきりとわたしたちの前に示されている。敵は彼から持っているすべてのものをはぎ取った。彼の家族のきずなは切られた。彼の子供たちは彼から取り去られた。しばらくの間、彼の体は忌むべきできものに覆われ、彼の苦しみは非常に大きかった。彼の友人たちが彼を慰めに来たが、彼らはヨブの苦難は彼の罪深い道によるもので、ヨブに責任があることを彼に認めさせようとした。……ヨブを神のみ前に有罪とし、神の刑罰を受けるのが当然なものにしようとすることによって、彼らはヨブの上に嘆かわしい試練をもたらし、神を誤った光のうちに提示した。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 3 巻 1140）

**2. 神聖な慰め主を反映する**

**a. わたしたちは、自分の友達に対するヨブの態度から何を学ぶべきですか（ヨブ 16:4, 5）。**

「クリスチャンはだれ一人として兄弟を訴える者であることを見出されないようにしよう。サタンこそ、この肩書を担う者である。彼は彼らを神のみ前に昼夜訴え、わたしたちの信仰の敵たちをかき立てて、わたしたちを訴えさせ、そして同様の尊い信仰を持っている人々が互いに批判し、責めるように刺激している。わたしたちは彼の働きにあずかってはならない。今は試練と大いなる危険の時であり、魂の敵は一人びとりの跡をつけねらっている。そしてわたしたちは世から分離する一方で、信仰と愛のうちに共に押し進むべきである。結合していれば、わたしたちは強く、分離していれば、弱い。

わたしたちは兄弟として、親切で、礼儀正しく、寛容で、互いに尊敬し合うよう訓告されている。」（ﾋｽﾄﾘｶﾙ・ｽｹｯﾁ 213, 214）

**b. 人はだれもわたしたちの痛みや悲しみを理解したり、同情したりしなくても、詩篇記者のように、どのように慰められますか（詩篇 27:10; 73:25, 26）。**

「だれでも時には、激しい失望と絶望に陥る時があって、心は悲しみに満たされ、神が今でも地上の子供たちの慈悲深い保護者であられることを信じ難い日々があるものである。心は悩みにさいなまれて、生きているよりは死んだほうがましだと思われる時がある。そうした時に多くの者は、神に対する信頼を失って、疑いと不信の奴隷になるのである。そのような時に、もしわれわれが霊的洞察力をもって、神の摂理の意味を悟ることができたならば、天使たちがわれわれを助けて、われわれの足を永遠の山よりも堅い基礎の上におこうと努めているのを見ることができるであろう。そして、新しい信仰と新しい生命がわき上がることであろう。」（国と指導者 上巻 130）

「わたしたちは自分の経験の暗い章ではなく、神の大いなる憐れみと尽きることのない愛の現れを省みている間は、つぶやくどころか、賛美するようになる。わたしたちは、真のやさしく同情深いご自分の群れの羊飼いとしての神の愛情深い忠実さを語るようになる。この群れについてこのお方は何ものもご自分のみ手から奪い去る者はないと宣言された。心の言葉は、利己的なつぶやきや不平ではなくなる。清い流れのように、賛美が神の真の信徒たちから流れるようになる。」（教会への証 6 巻 367）

**4. 忍耐を発達させる**

**a. 試練の時に、どのような見方が忍耐を発達させるのに助けとなりますか（ヤコブ 5:10; 哀歌 3:31–33）。**

「人生は訓練のためである。世にいる間、クリスチャンは逆に作用する感化力に出会うことであろう。気質を試す挑発があろう。そして、これらに正しい精神で応じることが、クリスチャンの恵みを発達させるのである。もし傷や侮辱を柔和に耐えるならば、もし侮蔑的な言葉に優しい言葉で、苛酷な行為に親切によって応じるならば、それは心のうちにキリストの霊が宿っている証拠であり、生きたぶどうの木からの樹液が枝に流れている証拠である。わたしたちはこの世の生涯でキリストの学校にいるのである。そこでわたしたちは柔和と心のへりくだりを学ばなければならない。そして、最後の清算の日に、わたしたちは遭遇したあらゆる障害、絶えるように召されたあらゆる困難や困惑が、クリスチャン生涯の諸原則を適用することにおいて実践的な教訓であったことを悟るであろう。もしよく耐えるならば、それらは品性においてキリストのすがたを発達させ、クリスチャンを世俗の人々から区別するのである。

もしわたしたちが高尚で純潔で聖なる、そして汚されていない神の子供になりたいのであれば、到達しなければならない高い標準がある。そしてもしこの標準に達したいならば、剪定の過程が必要である。もし困難に会うことなく、越えるべき障害もなく、忍耐や辛抱を要求することが何もなければ、どのようにしてこの剪定がなしとげられることであろう。これらの試練は、わたしたちの経験におけるもっとも小さな祝福なのではない。それらはわたしたちを勇気づけ、成功しようとの決意へ導く。わたしたちはそれらが自分たちを妨げ、押しつぶし、滅ぼすのを許す代わりに、自己に対して断固とした勝利を得るための神の手段として用いるべきである。」（教会への証 5 巻 344, 345）

**b. 聖書は試練と忍耐をどのように結びつけていますか（ローマ 5:3, 4）。**

「主はしばしば、わたしたちがより大きな努力を払うよう刺激するようなさまざまな立場に置かれる。主のみ摂理のうちに、特別な困惑が、時にわたしたちの忍耐と信仰を試すために生じる。神はわたしたちに信頼の教訓をお与えになるのである。このお方は必要なときに助けと力を求めて見るべき場所を教えようとしておられる。こうして、わたしたちはこのお方の神聖なみ旨について実際的な知識を得る。この知識こそ、わたしたちが生涯の経験において大いに必要としているものである。信仰は疑いや恐れと真剣に戦うときに強く成長する。」（同上 4 巻 116, 117）

## 木曜日　1月18日

**5. 祈りのうちに苦悩する**

**a. 目の前にある戦いのために、今日の試練は、なぜ不可欠なのですか（ゼカリヤ13:9）。**

「この最も激しい試練の時における、神のその子供たちに対する愛は、彼らの最も輝かしい繁栄の時と同じように、強く、やさしいのである。しかし、彼らは、火の炉に投げ入れられる必要がある。キリストの姿が完全に反映されるように、彼らの世俗的なところが焼きつくされねばならない。

われわれの前にある苦悩と苦悶の時は、疲労と遅延と飢えに耐えることのできる信仰、すなわち、激しく試みられても落胆しない信仰を要求する。その時に備えるために、すべての者に恩恵期間が与えられている。……自分をすて、神の前で心を悩まし、神の祝福を求めて熱心に祈り続けようとしない者は、それを受けることができない。祈りによる神との格闘―このことを知っている人がなんと少ないことであろう。熱烈な願いをもって、心から神によりすがり、全力を注ぎ出す人がなんと少ないことであろう。嘆願者の上に、言葉では表現することのできない絶望の波が押し寄せるときに、確固不動の信仰をもって神の約束にすがる者が、なんと少ないことであろう。……

われわれは今、神の約束を試すことによって、神をよく知らなければならない。天使は心からの熱心な祈りをすべて記録している。 われわれは、神との交わりを怠るよりも、利己的な満足を求めることをやめるべきである。神の是認の下にある最低の貧困、最大の自己犠牲は、是認のない富、栄誉、安楽、友情にまさっている。われわれは、時間をかけて祈らなければならない。もしわれわれが世俗のことに心を奪われているならば、主は、金、家屋、肥えた土地などの偶像を、われわれから取り去ることによって、われわれに時間をお与えになるかもしれない。」（各時代の大争闘下巻 394-396）

## 金曜日　1月19日

**個人的な復習問題**

**1. 人々がヨブのように苦しんでいるときに、神はどこにおられますか。**
**2. わたしは、どのようにヨブの友達の過ちの罪を犯すかもしれませんか。**
**3. わたしたちの苦しみに何の答えもないように見えるとき、わたしたちはどのようにすべきですか。**
**4. わたしたちの試練は、どのように忍耐を発達させますか。**
**5. 最終的な出来事のための準備において、わたしたちが必要としている種類の経験を述べなさい。**

# 栄光はただ神にのみ

**「わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、……わたしたちは救われたのである。**
」（テトス 3:5 上句）

「われわれは、自分自身を神に推薦するようなものを何も持っていない。われわれがいつでも訴えることのできる懇願は、われわれがまったく無力な状態にあるので、神の救いの力が必要なのだということである。」（各時代の希望中巻 30）

推奨文献：　教育 299–307

## 日曜日　1月 21 日

**1. 徳の高い人の苦しみ**

**a. ヨブの日常生活を特徴づけていた徳を述べなさい（ヨブ 29:5, 8–16）。**

「神はみ言葉を通して、ひとりのりっぱな人間、すなわち真の意味において成功の人生をおくり、天地の尊敬をうけたひとりの人間をえがいておられる。」〔ヨブ 29:4–16 引用〕」（教育 156）

**b. ヨブの試練から、わたしたちは時代を超えたどの教訓を学ぶべきですか（詩篇 34:18, 19）。**

「人間にとって、大きな災難は大きな犯罪や甚大な罪の確かなしるしだと考えるのはごく自然である。しかし、人はしばしばこのように品性を測って間違いを犯す。わたしたちは報復的なさばきの時代に生きているのではない。善悪が混じっている。そして災難はすべての人に及ぶのである。時には、人は神の保護の守りの境界線の向こうへ行ってしまう。そして、そのとき、サタンは自分の力を彼らの上に働かせ、神は介入なさらないのである。ヨブは激しく苦しめられた。そして彼の友だちは、彼の苦しみが罪の結果であることを彼に認めさせ、彼が有罪宣告の下にいることを感じさせようとした。彼らは彼の裁判を大罪人の裁判として表した。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]1 巻 3 巻 1140）

**2. 目覚めよとの召し**

**a. ヨブの良心は清く、彼の生涯は徳に満ちていましたが、神はご自分の忠実な僕が何を考えるために立ち止まるよう望まれましたか（ヨブ 38:1–7; 40:1, 2）。**

「一つ一つの開いている花、一枚一枚の繊細な葉脈を持った葉は、偉大な大芸術家の無限の技能を証する。巨大な岩々や遠方にそびえたつ山々は偶然の結果ではない。それらは静かに、高く上げられた宇宙の御座に座しておられるお方について雄弁に語っている。……このお方のすべての計画は完璧である。このお方のみ名は、どれほどの畏れと敬神を呼び起こすべきであろう！」（わたしたちの高い召し 251）

**b. ヨブは、目を覚ますようにとの神の召しにどのように答えましたか。ヨブのように他人から残酷に誤解され、不正に中傷されてきた人々はみな、どのように応じるべきですか（ヨブ 40:3–5; 42:6）。**

「先が見えず、経験の短いある友人たちは、視野が狭いために、他の人々の救いに関連して、キリストの魂と緊密に調和してきた人の気持ちを正しく評価することができない。彼の友だちであるはずの人々から、彼の動機は誤解され、その行動は曲解され、彼はついにヨブのように、わたしの友人たちからわたしを救ってください、との真剣な祈りをあげるのである。神はヨブの裁判をご自身のみ手のうちに引き受けられた。彼の忍耐は厳しく重い負担を強いられた。しかし、神が語られるとき、彼の不機嫌な感情は変わった。彼が感じた自己義認は、彼の友人たちの有罪宣告に耐えるために必要であったが、神に対しては必要なかった。このお方は決して誤解なさらず、決して誤ることがない。主はヨブに言われる、『あなたは腰に帯して、男らしくせよ』。そしてヨブが神聖なみ声を聞くや否や、自分の罪深さを自覚して、彼の魂はひれ伏す。そして彼は神のみ前に言うのである、『それでわたしはみずから恨み、ちり灰の中で悔います』（ヨブ 38:3; 42:6）。」（教会への証 3 巻 509）

「わたしたちは危険な時代に生存している。セブンスデー・アドベンチストは戒めを守る神の民だと公言している。しかし、彼らは献身的な精神を失いつつある。この神への敬神の精神は、人々にどのように造り主に近づくべきか—自分自身ではなく、仲保者を信じる信仰を通して、神聖さと畏敬をもって近づくべきことを教える。こうして、人はどのような状況下に置かれても、固く保たれるのである。」（ﾉｰﾄﾌﾞｯｸ・ﾘｰﾌﾚｯﾄ 1 巻 121）

**3. 神の豊かな恵み**

**a. ヨブとその友人たちに関して、主の最終的な判決から、わたしたちは何を学ぶべきですか（ヨブ 42:7–9）。**

**b. そのとき、ヨブのために、神は何をなさいましたか。それはなぜですか（ヨブ 42:10–17; 詩篇 66:10–12）。**

「ヨブは失望と落胆のどん底から、神のあわれみと救いの力に絶対的に信頼するという高尚な境地に昇った。」（国と指導者上巻 132）

「ヨブは創造主のお姿を拝見したときに、自分自身を忌み嫌って、ちり灰の中で悔い改めた。その時に主は、彼に豊かな祝福を与え、彼の最後の年月を、彼の生涯の最良のものとすることがおできになったのである。」（同上 133）

**c. 忠実なヨブの態度は、なぜすべてのクリスチャンを鼓舞すべきなのですか（ヤコブ 5:11; エペソ 2:8–10）。**

「イエスに最も近く生活する者が、人間の弱さと罪深さを最もはっきりと認める。そして自分たちの唯一の希望を、十字架につけられ復活された救い主の功績に置くのである。」（各時代の大争闘下巻 200）

「神聖な取り計らいのうちに、ご自分の功績によらない恩寵を通して、主は良い行いが報いられるようにお定めになった。わたしたちはキリストの功績を通してのみ受け入れられる。そしてわたしたちの行う憐れみの行為、愛の行いは、信仰の実なのである。そしてそれらはわたしたちにとって祝福となる。なぜなら、人は自分の行いに従って、報われるからである。わたしたちの良い行いを神に受け入れられるものとするのは、キリストの功績の香りである。そして神がわたしたちに報いて下さる行いをなすことができるようにしたのは、恵みである。自分の、自分自身によるわたしたちの行いには、功績がない。わたしたちがなすことのできるすべての事をなしてしまったとき、自らをふつつかなしもべとみなすべきである。わたしたちは神から感謝されるに値しない。わたしたちはただ自分たちのなすべき義務であったからなしたにすぎず、わたしたちの行いは自分自身の罪深い性質の力では、なすことができなかったのである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1895 年 1 月 29 日）

**4. 上げられたキリスト**

**a. ヨブのように徳の高い人、この人の霊的な必要（あるいはだれか他の人々の霊的な必要）について、わたしたちは何を悟るべきですか（ペテロ第一 1:18, 19）。**

「祈り、賛美、悔いた罪の告白は、真の信徒から天の聖所へ香のように上るが、人類という堕落した水路を通っていくため、それらはあまりにも汚されていて、血によって清められない限り、神のみ前に決して価値あるものとはならない。それらは、しみのない純潔のうちにのぼることはない。そして、仲保者、すなわち神の右におられるお方が、すべてをご自分の義によって提示し、清めて下さるのでなければ、神に受け入れられることはない。地上の幕屋からの香はすべて、キリストの血という清めのしずくによって潤されなければならない。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 3 巻 1 巻 344）

「キリストの霊を持てば持つほど、わたしたちはますますへりくだるようになる。わたしたちがキリストをはっきりと見るとき、自己称揚の言葉がわたしたちの唇から漏れることはない。主がヨブにご自分の威光をお見せになったとき、彼は自分自身の義を擁護することをやめた。彼は自分の罪深さを感じ、神の純潔と聖潔の前に、自らをへりくだらせた。彼は次のように言った、『わたしはみずから恨み、ちり灰の中で悔います』（ヨブ 42:6）。しかしなお、霊感の筆によって、神は、ヨブを完全で正しいもの、すなわち神を恐れ、悪を避ける者として提示しておられる。『ヨブのよう（な）者』は『世にない』（ヨブ 1:8）。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1898 年 8 月 11 日）

**b. ヨブがキリストを自分の救い主として信頼していたことが、どのようにわかりますか（ヨブ 19:25–27）。このことは、わたしたち一人びとりをどのような霊感を受けた決意へと導くべきですか。**

「あなたには正しい品性を形成するために与えられた恩恵期間という尊い時間がある。……あなたは今、時を贖うためにあなたに割り当てられた期間を持っている。あなたは自分自身の力では自分の過ちや悪を捨て去ることはできない。それらは、あなたがそれらの忌まわしさを認めず、神の力のうちに断固として捨て去らなかったために、何年もの間に、ますますあなたの上に増し加わってきた。生きた信仰によって、あなたは救うのに力強いみ腕をつかまなければならない。あなたの哀れな、誇り高い、自己義の心を神のみ前にへりくだらせなさい。低く、非常に低く、このお方の足元で、あなたの罪深さのうちにことごとく砕かれなさい。自らを準備の働きのために捧げなさい。あなたが真に次のように言うことができるようになるまで休んではならない、『わたしをあがない主は生きておられる、そしてこのお方が生きておられるがゆえに、わたしも生きるのである』。」（教会への証 2 巻 88）

## 木曜日　1月25日

**5. 神のいつくしみ深さに信頼する**

**a. 見通しが暗澹としている時に、どの態度が、ヨブの信仰にならうためにわたしたちを強めますか（ヨブ 13:15, 16）。**

「わたしたちは、できる間は見える者によって歩んでも義と認められるが、道がはっきりと見えなくなったとき、その時こそ、わたしたちは天父のみ手に自分の手をあずけて、導いていただく必要がある。わたしたちが見えるものにも、記憶にも、経験にも従うことのできない危急の時が、すべての人の生涯においてある。わたしたちにできることは、ただ信頼して待つことである。わたしたちはこのお方が自分の天父であられるがゆえに、神に信頼して、このお方を尊ぶのである。」（原稿ﾘﾘｰｽ 19 巻 186）

「あなたは不吉な予感に恐れを感じ、失望落胆に陥ろうとしているであろうか。一見絶望的で、最悪の事態にあっても恐れてはならない。神を信じなさい。」（国と指導者上巻 133）

**b. ヨブの歴史は、どのように信仰による義を例証していますか。またどのようにしてこの主題を、わたしたちの生活の中で反映すべきですか（ローマ 5:1–5; テトス 3:3–7）。**

「神のテストに耐えることができるのは、ただキリストの力と義により頼む時だけである。わたしたちは思いを教育し、何度も何度もキリストがご自分のみ手をわたしたちの上においておられるという事実を思い出さなければならないことであろう。このお方はご自身の唇をもって言われた、『わたしから離れては、あなたがたは何一つできない』。しかし、キリストを通して、わたしたちはすべてのことをなすことができる。わたしたちが歩む道を選定するのは、わたしたちのすることではない。しかし、わたしたちが自分に及ぶすべてのことをみな神のみ摂理のうちにあるものとして受け入れるならば、わたしたちの苦難でさえ、忍耐を生むのである。そしてわたしたちがイエスを信仰によってみている間は、失望のうちに沈むことはない。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892 年 3 月 28 日）

## 金曜日　1月26日

**個人的な復習問題**

**1. なぜわたしは苦しんでいる人の事情を誤って判断する危険性があるのですか。**
**2. 神の礼拝において、ほとんど消えかかっていながら、重要不可欠なものは何ですか。**
**3. 何がヨブを自分のみじめさから出るほど驚かせましたか。**
**4. 神聖な贖い主により頼むことが、なぜそれほど重要なのですか。**
**5. どれほど事態が悪くなろうと、わたしたちはいつも何を心にとめているべきですか。**

安息日 2018 年 2 月 3 日

# 第一安息日献金

## 世界災害と福祉のために

「〔主は〕しえたげられる者のためにさばきをおこない、飢えた者に食物を与えられる」（詩篇 146:7）。

主イエスは次のように言われました、「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう」（マタイ 5:7）。「〔主は〕しえたげられる者のためにさばきをおこない、飢えた者に食物を与えられる」（詩篇 146:7）。今日、かつてなかったほど憐れみを働かせることが大いに必要とされています。神はわたしたちを管理者とされました。そしてこのお方は苦難や悲惨や裸や人類の必要について責任はありません。主はわたしたち全てのために十分な備えをしてくださいました。このお方はわたしたちにこれらの苦しむ人々や恵まれない人々の欠乏を和らげるために大いなる供給を与えてくださったのです。

毎日、わたしたちは地震、戦争、洪水、噴火、またその他財産や人名に破壊や大損害をもたらす災害や問題を世界中で聞きます。わたしたちが災害について聞くとすぐに彼らの必要に応えるために行動に移します。どのように応えるかは、災害の性質や、国、目下の経済や地理や政治的状況によります。わたしたちはすみやかに状況を分析し始め、何が一番良い対応かを決定します。

これに加え、平穏時に福祉支部は、申し込みを通じての基金、技術支援、訓練、指導、また事業の特定や実施などを提供します。わたしたちに専門知識があるところでは、必要とされているところに監督や指導を提供することによって支援したいのです。わたしたちの目標は、食物、衣服、毛布、避難所、あるいは心理的援助やカウンセリングなど何でも地方の教会がその地域の必要に応じることができるように強化することです。

神の愛を世界中に分かち合うことは、飛ぶための燃料を必要とする飛行機のようなものです。皆さんの献金はこれらの不足を援助するほとんどすべての方面を推進する燃料です。皆さんの参加とこの燃料がなければ、わたしたちの努力もまた災難となることに間違いありません。全ての人が災害の現場へ行くことは難しいですが、資金は遠くへ行くことができます。皆さんの心が動かされ、この高尚な任務に参加するようお願いします。この事業のために惜しみない献金をお願いします。

福祉支部より皆さんの兄弟より

# 霊的な危機の時

**「それだから、愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。」（コリント第一 10:14）**

「常に、エホバに忠誠を尽くす残りの者が存在していた。主は、ときどき、忠実で勇敢な人々をお立てになって偶像礼拝をやめさせ、イスラエルを彼らの敵からお救いになった。」（人類のあけぼの下巻 191）

推奨文献：　人類のあけぼの下巻 188–193

## 日曜日　1月 28 日

**1. 神のみ前に有罪**

**a. カナンの定住において、イスラエルは何をすることを怠りましたか（士師記 1:28–33）。**

「主は、ご自分がイスラエルになさった約束を忠実にお果たしになった。ヨシュアは、カナン人の力をくじき、国土を部族の間に分配した。あとは、彼らが神の援助の確証を信頼して、土地に住んでいる住民を追い出す仕事を完成すればよかった。しかし、彼らはそれをしなかったのである。彼らは、カナン人と同盟を結んで、神の命令に直接反逆し、そうすることによって、神が彼らにお与えになったカナン所有の約束の条件を履行しなかった。」（人類のあけぼの下巻 188）

**b. これが非常に深刻なことであったことを、何が示していますか（出エジプト記 23:24, 25）。**

「神が、シナイにおいて、彼らと交わられた一番初めのときから、〔イスラエル〕には、偶像礼拝に対する警告が与えられていた。……

彼らは、こうした崇高な運命のもとにあったにもかかわらず、安易と放縦の道を選んだ。彼らは、国土征服を完成する機会を逸した。」（同上 190）

**2. 怠慢の高い代価**

**a. 神のみ前に自分の義務を果たさなかったことによって、イスラエルに何が起こりましたか。またこれはどのように預言の成就でしたか（詩篇 106:35–40; 民数記 33:55）。**

「ヨシュアの教えを受けた世代がなくなってしまうまでは、偶像礼拝はほとんど広がらなかった。しかし、両親が子供たちの背信の道を開いた。カナンを占領した人々が、主の制限を無視したことが悪の種となり、その後、幾世代もの間、苦い果実を結び続けた。ヘブル人の単純な習慣は、彼らを肉体的に健康にした。ところが、異教徒と交際して食欲と情欲にふけり、徐々に体力を衰えさせ、知的、道徳的能力を弱めてしまった。イスラエル人は、自分たちの罪のために、神から離れた。神の力が彼らから去り、もはや、敵に勝てなくなった。こうして、彼らは、神によって征服するはずであったその国々に負けてしまったのである。」（人類のあけぼの下巻 190, 191）

**b. 主はついに、どのような手段を取らざるを得ませんでしたか。またなぜ、わたしたちは自分たちの時代に、このことを深刻に受け止めるべきなのですか（士師記 2:12; 詩篇 78:58, 60, 61）。**

「教会の中に最も嘆かわしい偶像礼拝が存在している。クリスチャンと、神への心を尽くした奉仕の間に介入するものは何でも、偶像のかたちをとっており、そして偶像礼拝の最も嘆かわしい罪は、偶像礼拝そのものである。」（ﾎﾟｰﾙｻﾝ・ｺﾚｸｼｮﾝ 343）

「昔のイスラエルのように、教会は光から離れ、自分の義務をなおざりにし、品性において特別な聖なるものとなるという自分の高く、また高められた特権を悪用することによって、神を辱めてきた。教会員は神のために、そしてただこのお方のためだけに生きるという自分たちの契約を破ってきた。彼らは利己的で世を愛する人々と連なってきた。」（教会への証 2 巻 441, 442）

「自分自身の知恵、自分自身の考案に信頼し、成功するために自分の富や力に頼り、世が偉大だと呼ぶが、神の律法の拘束力ある要求を識別しない人々と同盟を結ぶことによって自らを強めようと奮闘する者たちを、神は偶像礼拝者として分類される。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1906 年 3 月 15 日）

**3. 偶像礼拝を避ける**

**a. 偶像礼拝に関して、クリスチャン時代に、どのような訴えがなされていますか（コリント第一 10:14; ガラテヤ 5:19–21）。この悪の危険について、主の使命者に示された驚くべき幻を述べなさい。**

「異教の偶像礼拝者たちの大群が、日、月、星を描いた黒い旗をもっていた。この一団は、非常に獰猛で怒った顔つきをしていた。それから、わたしは、『主のために純潔で聖別されたもの』と書かれた、真白な旗をもった別の一団を示された。彼らは、その固い決心と神にすべてを委ねた気持ちをその顔にあらわしていた。わたしは、異教の偶像礼拝者たちが、彼らに接近し、大虐殺が行われるのを見た。クリスチャンたちは、彼らの前に消え失せた。しかし、クリスチャンの一団は、ますます結束を固めて、いっそうしっかりと旗を確保した。倒れる者があれば、それだけまた他の者が旗のまわりに集まって、その場所を埋めた。

わたしは、偶像礼拝者たちの一団が、相談しているのを見た。彼らは、クリスチャンたちを負かすことができなかったので、別の計画を立てることにした。彼らは、自分たちの旗をおろして、堅く立っているクリスチャンの一団に近づき、彼らに和平を申し入れているのを見た。最初、彼らの提案は、全然受け入れられなかった。次に、わたしは、クリスチャンの一団が相談しているのを見た。中には、旗をおろして提案を受け入れ、自分たちの生命を保てば、やがて力を増して異邦人の間に旗をかかげることができる、と言う者もあった。しかし、少数の者は、この計画に従わず、旗を下げるよりはむしろそれを固く死守することを選んだ。それから、わたしは、多くの人々が、旗をおろして、異邦人に加わるのを見た。しかし、固く立って動かなかった人々は、ふたたび、その旗をとって高くかかげた。わたしは、純潔な旗を持った一団の中から人々が絶えず去っていって、黒い旗のもとにある偶像礼拝者たちに加わり、白い旗を持った人々を迫害するのを見た。多くの人々が殺された。しかし、白い旗は高くかかげられた。そして、信じる人々が起こって来て、その回りに集まった。」（初代文集 352, 353）

**b. 避けるべき他の良くある偶像礼拝のかたちを挙げなさい（コロサイ 3:5, 6）。**

「すべてのどん欲は偶像崇拝として責められている。すべての利己的な放縦は、神の御目にはいとわしいものである。」（キリストの実物教訓 236）

**4. 必要とされる救出者**

**a. 士師の時代のあいだ、イスラエルの偶像礼拝に、どのような苦々しい結果が続きましたか（士師記 6:1–5）。**

「さばくの残忍な住民が、『いなごのように多く』、彼らの家畜とともに、国内に侵入してきた（士師記 6:5）。彼らは滅ぼし尽くす疫病のように全国に広がって、ヨルダン川からペリシテの平原にまで及んだ。彼らは、作物が実り始めるやいなややって来て、地の最後のくだものの取り入れが終わるまでいた。彼らは、畑の産物を奪い、住民のものを盗んで虐待してはさばくにもどって行った。こうして、畑に住んでいたイスラエル人は、家を捨てて城壁の中の町に集まったり、城に避難したり、時には、山中の岩陰や洞穴の中に隠れなければならなかった。」（人類のあけぼの下巻 192）

**b. イスラエル人はついに何をしましたか。そしてどのような憐れみ深い答えを、彼らは受け取りましたか（士師記 6:6–10）。**

「そして、人々が、その苦難の中で主の譴責に従って、彼らの罪を告白したので、神は、ふたたび彼らのために救済者を起こされたのである。」（同上）

**c. 神は時の人として、だれを起こされましたか。なぜですか（士師記 6:11–14; 箴言 4:26; ハガイ 1:7）。**

「ギデオンが秘かに静かに労しているとき、彼は悲しくイスラエルの状態を考え、どのようにして圧制者のくびきを自分の民から砕き去ることができるかを考えていた。」（同上）

「神のみ言葉に対して思いが開かれている人は、自分が神を尊び、主の道を守ることができるように、自分の足のすべての道を祈りをもって考える。」（彼を知るために 251）

## 木曜日　2月1日

**5. 謙遜な行動の人**

**a. 天の使命者によって語られたときのギデオンの精神から、わたしたちはどの態度を学ぶべきですか（士師記 6:15, 22, 23）。**

「神がむかし、個々人に仕え、あるいは伝達するために、ご自分の御使を遣わし、そしてこれらの人々が、自分たちは御使を見て、共に語ったのだということがわかったとき、彼らは畏敬の念に打たれて、自分たちが死ぬのではないかと恐れた。彼らは、非常に高められた恐るべき神の威光と力についての見解を持っていたため、このお方の聖なるご臨在のみ許から直接来た者との非常に近いつながりに導き入れられたがために、自分が滅ぼされるのではないかと思った。」（教会への証 1 巻 410）

**b. 自分の民の間で改革の働きを始めるために、極めて本質的などの重要な要求を、ギデオンは果たしましたか（士師記 6:24–27）。**

「イスラエルの救済は、バアル礼拝に対する断固たる反対によって始められなければならなかった。ギデオンは、イスラエルの民の敵と戦う前に、偶像礼拝との宣戦を布告しなければならなかった。

神の命令は、忠実に行なわれた。ギデオンは、もしも公然と行なえば、反対に会うことがわかっていたのでひそかに事を運んだ。彼は、しもべたちの援助によって、一晩のうちにそれをやり遂げてしまった。」（人類のあけぼの下巻 194）

## 金曜日　2月2日

**個人的な復習問題**

**1. 誘惑の源だと知っているものから分離することが、なぜ重要なのですか。**
**2. 具体的にどの罪が、ミデアン人からの圧制を引き起こしましたか。**
**3. 悪人からの迫害と悪人との妥協は、どちらの方がもっと危険ですか。**
**4. 危機の時に、何がわたしたちの神の驚くべき憐れみを明らかにしていますか。**
**5. わたしの生涯において本物の改革を起こすためには、わたしはどのような段階を取る必要がありますか。**

# 残りの民を新たに生かす

**「キリスト・イエスの良い兵卒として、わたしと苦しみを共にしてほしい。兵役に服している者は、日常生活の事に煩わされてはいない。ただ、兵を募った司令官を喜ばせようと努める。」（テモテ第二 2:3, 4）**

「義務の道に一歩一歩従いなさい。急な坂を上らなければならないかもしれないが、謙遜の、信仰の、自己否定の道を前進し、疑いの雲を後にしなさい。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 272）

推奨文献：　人類のあけぼの下巻 193–195

## 日曜日　２月４日

**1. 神の御霊が働いている**

**a. 夜のうちに、ギデオンがバアルに捧げた自分の父親の祭壇を処分した後、町の人々は翌朝、どのように反応しましたか（士師記 6:28–30）。**

**b. ギデオンの父親はどのように答えましたか。なぜですか（士師記 6:31, 32）。**

「ギデオンは、自分の父親ヨアシに御使の訪問について、またイスラエルが救出されるという約束について語っていた。彼はまたバアルの祭壇を破壊するようにとの神聖な命令を彼に語った。神の御霊はヨアシの心を動かした。彼は自分が礼拝していた神々には自分自身を完全な破壊から救うことさえできないこ、そうであれば彼らは自分たちに礼拝する者たちを守ることはできないのであった。偶像礼拝者たちの大群衆が、ギデオンの死を求めて叫んだとき、ヨアシは恐れずに彼の防御して立ち、そして人々に彼らの神が、いかに無力で信頼や崇敬の価値がないかを示そうと努めた。〔士師記 6:31 引用。〕

「彼は彼らに、ギデオンの代わりに彼ら自身に死刑が正当に課せられるであろうことを思い起こさせた。なぜなら、彼らが偶像礼拝に対して神の律法を犯したからであった。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 6 月 23）

**2. 神の驚くべきみ摂理**

**a. 偶像を捨てることは、どのように進展の動機を与えましたか（士師記 6:33–35）。**

「〔偶像破壊の〕執行全体は、ギデオンのかき立てるような訴えと相伴い、オフラの人々の上に強力な効果を生み出した。あらゆる暴力の思想は退けられた。そして主の御霊によって動かされて、ギデオンが戦争のラッパを響かせたとき、彼らは彼の下に集まる最初の人々の中にいた。彼はその時、自分自身のマナセの部族にくまなく使者を遣わした。またアセル、ゼブルン、ナフタリへと遣わし、みな快活に召しに従った。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 6 月 23 日）

**b. 主からの確認を要求したギデオンの祈りから、わたしたちは何を学ぶことができますか。彼の嘆願を促したものは何でしたか（士師記 6:36–40）。**

「ギデオンは自分の前にある偉大な働きに対して自分自身が不十分であることを深く感じた。彼は神がこの働き自分を召してくださったのであり、このお方が自分と共にいて下さるというはっきりとした証拠なしには、軍勢の長につこうとはしなかった。……

不信は、大気に湿り気があれば自然に羊毛が吸収するのではないか、そうであればテストは決定的ではないとほのめかした。そこで、〔ギデオンは〕しるしを新たにしてくださることを求め、謙遜に、不信のために主がお怒りにならないよう嘆願した。彼の要求は聞かれた。……

誉の前に謙遜がある。主は自分自身の無価値さと無能さを最も感じている人々を、最も効果的に用いることがおできになる。このお方は彼らに信仰の勇気を働かせるようにお教えになる。このお方は自分たちの弱さをご自分の強さに結びつけることによって彼らを強くし、彼らの無知をご自分の知恵につなげることによって賢くされるのである。

神はご自分のみ旨に対する従順のうちに働くすべての人、すなわち何かを考慮して良心にしみをもたらすようなことをしない人、いかなる感化も自分を義務の道から導き出すことを許さないすべての人の奉仕をお受入れになる。……

正しい目的と清い心を持ち、教えを受け、信頼心のある人々は、自分たちが力を用いるのに、何か大きな機会やただならぬ能力を持つことを待つ必要はない。彼らは優柔不断になったり、疑ったり、世が自分たちのことをどのように言い、どう考えるかを恐れたりすべきではない。わたしたちは不安なわずらいに自ら弱るのではなく、静かに忠実に神がわたしたちに任命される働きを行い続け、結果は完全にこのお方にお任せすべきである。」（同上）

**3. 神は心をご存じである**

**a. 昔のイスラエルにおいて、戦争の間、家族を思う神の同情を明らかにするどの律法が制定されていましたか。(申命記 20:5–8)。**

「戦いに出る前に、次の宣布が軍全体に鳴り響くことが、イスラエルにおいて決まりとされてきた。〔申命記 20:5-8 引用〕。これはなんと優しく憐れみ深いキリストの愛の著しい例証であろう！命の関係と親族のきずなを制定されたお方は、これらがあまりにも広く破られることがないように特別な備えをなしてくださった。このお方はだれも戦いに不本意に行くことを望まれなかった。この宣布はまた強力な方法で、信仰と勇気の足りない一人の人によって及ぼされる感化力を説明し、さらにはわたしたちの思想や感情がわたしたち自身の一連の行動に及ぼす効果を示している。」(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 6 月 30 日)

**b. 自分の危険においてギデオンが神の指示を確認した今、主はふたたびどのように彼を驚かせましたか。それはなぜですか (士師記 7:1, 2)。誇りは今日、わたしたちの上にどのような影響を及ぼしますか。**

「ギデオンは、敵の数と比較して自分のほうがいかにも少なかったので、いつもの〔申命記 20:5-8 の〕宣言をするのを差し控えていた。彼は、自分の軍隊がまだ大きすぎるという宣告を聞いて、驚きに満たされた。しかし、主は、彼の民の心に誇りと不信仰があるのをごらんになった。彼らは、ギデオンの力強い訴えを聞いて奮い立ったのではあるが、ミデアン人の大軍をながめて恐怖をいだいたものが多かった。それにもかかわらず、もし、イスラエルが勝利をおさめるならば、勝利を神に帰すかわりに、自分たちに栄光を帰してしまったことであろう。

ギデオンは、主の指示に従った。彼は、全軍の三分の二以上の二万二千人が家に帰るのを見て、非常に心を痛めた。」(人類のあけぼの下巻 196)

心の誇りは品性の恐るべき特質である。『高ぶりは滅びにさきだち』(箴言 16:18 上句)。これは、家族において、教会において、国家において真実である。」(信仰によってわたしは生きる 68)

**4. 品性のテスト**

**a. ギデオンの軍勢が 10,000 人まで減らされた後、神は彼に戦いに出る前に何をするようお命じになりましたか（士師記 7:4, 5）。**

「すぐに敵に向かって行くつもりで、人々は水ぎわにつれていかれた。進みながら手で水をすくって、急いで水を飲んだ者がわずかながらいたが、大部分は、ひざをかがめて、水面に口をあててゆっくり飲んだ。手を口にあてて水を飲んだ者の数は、一万人のうちわずかに三百人であった。けれども彼らが選ばれて、残りの者はみな、家に帰ることを許された。

品性は、ごく簡単な方法で試みられるものである。危機に際して、自分の必要を満たすことに心を奪われているような者は、危急の場合に信頼できる人ではない。主は、怠惰で放縦な人をご用にお用いになることはできない。主が選ばれる人は、自己の必要のために義務の遂行を遅らせたりしないわずかの人々である。」（人類のあけぼの下巻 197）

**b. 神が教えておられた実際の原則は、同様に今日の神の教会においてわたしたちにもどのように適用されますか（ピリピ 2:4; 3:13, 14）。**

「成功は力や数に依存していない。神は多数をもってと同様、少数をもって救出することがおできになる。大きい教会が必ずしも強い教会なのではない。その教会員のある者は利己心、誇り、あるいは不信をいだいているかもしれない。ある者は不正直かもしれず、他の者は心と生活が堕落しているかもしれない。これらすべては教会にとって弱さの源である。彼らのゆえに神はご自分の民にまゆをひそめられ、彼らを通して大敵は自分自身の事業を進展させるために働く。

昔、世俗的な利益が自分の心を神のみ働きから引き離す人々は、家に帰るように命じられた。もしだれでも自分の注意が自分自身の個人的な利益に没頭しているならば、神のみ働きから離れて、自分たちの心が喜ぶことに専念する方が、今日、真理の事業のために良いのである。そうすれば、彼らは自分たちの悪い模範によって、他の人々に危険な感化を及ぼすことがない。

神は数の多さによってではなく、ご自分に仕える人々の品性によって、誉を受けられるのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 6 月 30 日）

## 木曜日　2月8日

**5. 平和の君の兵士たち**

**a. ご自分の特別な軍隊に入っているすべての人のための神のご計画は何ですか（テモテ第二 2:3–5）。**

「わたしたちは単に自分自身の世話をするためにこの世に置かれているのではなく、大いなる救いの計画において、助け、こうして自己否定、自己犠牲、有益なキリストの生涯を模倣することが要求されている。」（教会への証 1 巻 325）

「真のクリスチャンの品性は、目的の専心さ、不屈の決意、すなわち世俗の感化に屈することを拒否し、聖書の標準以下のものを目指すことはしないことに特徴づけられている。もし人が神の奉仕において失望することを自らに許してしまうなら、大敵は彼らを明白な義務の道から安逸で責任のない道へ向きを変える十分な理由を提示する。買収されたり、誘惑されたり、失望させられたり、恐れさせられたりする可能性がある人々はクリスチャンの戦いにおいて役に立たない。自分の愛情を世俗的な宝や世俗的な誉に置く人々は、高いところにおける支配と、権威、そして霊的な悪に対する戦いを押し進めることはない。

キリストの十字架の兵士になりたい者はみな、武具を固め、戦いに準備しなければならない。彼らは脅しによっておびえたり、危険によって恐れたりすべきではない。彼らは危険において注意深くなければならないが、それでいながら、敵に直面し、神のために闘うことにおいて、堅固で勇敢でなければならない。キリストに従う人々の献身は完全でなければならない。父親、母親、妻、子供、家、土地、すべてのものは、神のみ働きとみ事業に従属するものでなければならない。彼は忍耐強く、快活に、喜びをもって、神のみ摂理のうちに自分が甘んじるように召されることには何でも喜んで担わなければならない。彼の最終的な報いは、キリストと共に不朽の栄光の御座にあずかることである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 6 月 30 日）

## 金曜日　2月9日

**個人的な復習問題**

**1. ギデオンがヨアシにしたように、わたしはどのように背教の中にあってだれかに訴えることができますか。**
**2. 神の民を救出する任務に、なぜ任命されたのがギデオンだったのですか。**
**3. なぜ神は 32,000 人を 10,000 人へ減らしたいと思われたのですか。**
**4. 人がどのように水を飲むかについてのテストが、どのように今日当てはまるか説明しなさい。**
**5. この世のものではない王国のために霊的な兵士になるというのは、どういう意味ですか。**

# 活動的な信頼 Active Trust

**「ギデオンは彼らに言った、『わたしはあなたがた〔イスラセルの人々〕を治めることはいたしません。またわたしの子もあなたがたを治めてはなりません。主があなたがたを治められます』。」（士師記 8:23）**

「厳しく試されたときに、あなたの信頼を肉の腕においてはならない。そうではなく、生ける神に置きなさい。あなたの傍らにあって、困惑と試練の時に取るべき手段を告げる用意をしておられるお方を信じる信仰を持ちなさい。このお方はすべてを計画してこられた。」（説教と講和２巻 178）

推奨文献：　人類のあけぼの下巻 197–206

## 日曜日　2月11日

**1. 真剣な民兵たち**

**a. 闘いの前に水を飲んだ 10,000 人のうち、自分の使命を真剣に受け止めたのは何人でしたか。また神は彼らにどのような結果を約束なさいましたか(士師記 7:6–9)。**

「〔小さい残りの民〕は、勇気と自制心を保有しているばかりでなく、彼らは信仰の人であった。彼らは自らを偶像礼拝で汚してはいなかった。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年６月30日）

「主は、今も全く同じように人間の努力を通して働き、弱い器を通して偉大なことを成し遂げたいと願っておられる。真理について知的な知識をもつことが不可欠である。なぜなら、そうでなければ、どうやって狡猾な反対者に応じることができるであろう。聖書をただそれが教える教理のためばかりでなく、その実践的な教訓のために、研究しなければならない。あなたは決して驚かされるべきではなく、武具をまとわずにいるべきではない。どんな緊急時にも、どんな義務の召しの時にも準備していなさい。預言に精通し、キリストの教訓に精通して、真理を提示するための一つ一つの機会を待ち、見張りなさい。しかし、良く準備された論拠に信頼してはならない。論拠だけでは十分ではない。ひざまずいて、神を求めなければならない。あなたは神の御霊の力と感化を通して、人々に会いに出ていかなければならない。

迅速に行動しなさい。神はあなたが、ギデオンの軍を構成していた人々のように、民兵であることを望んでおられる。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1884 年７月１日）

**2. 狭い道を選ぶ**

**a. 神のみ働きにおいて神が少ない人数をお用いになることを何が表わしていますか。わたしたちの学校においてさえ、神はどのように運営することを命じておられますか（ローマ 9:27; 12:1, 2; ヤコブ 4:4）。**

「ある人々は、もし宗教的な教えが目立つと、わたしたちの学校の人気がなくなり、わたしたちの信仰を持たない人々がそれらを後援しなくなると訴えるであろう。結構である。そうであれば、彼らに他の学校へ、自分の嗜好にあった教育システムを見出す場所へ行かせなさい。これらを考慮して、わたしたちの学校が設立されるべき目的の達成を阻むことが、サタンの目的である。サタンの考案によって妨げられ、経営者たちは世の方法にしたがって理由づけ、世の計画をまね、世の習慣を模倣するのである。多くの人々はこれまで学生たちに世俗的な娯楽を提供することによって神と真理の敵に連なることに関して上からの知恵に欠如していることを示してきた。こうすることによって、彼らは自らの上に神のご不興を招いている。なぜなら、彼らは青年たちを誤って導き、サタンのために働きをなしているからである。彼らはこの働きに、その一切の結果と共に、神の法廷で直面しなければならない。

そのような方針を取る人々は信頼できないものであることを示しているのである。……主がわたしたちに区別された特別なものであるように要求されるとき、どうして人気をほしがったり、世の習慣や慣習を模倣しようとしたりできようか。……

人気を得たり、数を増やしたりするために標準を下げ、それからこの増加を喜ぶ理由とすることは、大変な盲目を示すものである。もし数が成功の証拠であるなら、サタンは卓越さを主張することができるであろう。なぜなら。この世では彼に従う人々が大多数だからである。学校の繁栄の試金石は学校に行き渡っている道徳的な力の度合いである。数ではなく、わたしたちの学校を構成している人々の徳、知性、そして敬神こそ、喜びと感謝の源となるべきである。」（教会への証 6 巻 142, 143）

神の教会で責任ある地位を占めている多くの人々は、不信心な人々の支持を得るために 自分たちの高潔さを犠牲にしている。強い潮流が下方へ向かって一掃しているが、彼らはそれに対抗して櫓をこぐよりも、流れに漂うほうが簡単だと決め込んでいる。イスラエルの子らのように、彼らは自分たちの無精と霊的な怠惰によって神の祝福を犠牲にしている。多くの人々は自分の心の中に偶像―利己心という偶像、誇りや見せびらかしへの愛着という偶像―を設置している。永遠の事柄がその価値を失っている。神がわたしたちの霊性を保ち、強めるために備えて下さった感化力を引きあげ、それが衰え、死滅している。わたしたちは絶えず、神に引き寄せられ、このお方のみ旨を学ぶことを求めていなければならない。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 6 月 30 日）

### 3. 勝利と機転

**a. 今日、神のみ働きにおいて、ギデオンの軍勢に与えられた独特な戦略から何を学ぶべきです（士師記 7:12–22）。**

「人が、真理と恵みと義の御霊の現れが自分たちの考え通りでなく、自分たちの秩序だった計画の方針に従ってもたらされなかったからと言って、抵抗するのは危険である。主はご自身の方法によって、そしてご自身の考案されることに従って働かれる。自己を脱ぎ捨て、天との調和に入れるように祈りなさい。……主がギデオンに、ミデアン人と闘いに行こうとしている時にお与えになった指示の中に、すなわち彼は敵に対してラッパを吹く 300 人の軍を連れて、自分たちの手に空のつぼを携え、『主のためのつるぎ、ギデオンのためのつるぎ』と叫んで、自分の敵に対して出ていくようにとの指示の中に、これらの几帳面で、秩序だった、形式的な人々は、矛盾と混乱以外の何ものも認めなかった。彼らは断固とした抗議と抵抗をもって、後ろに引き始めた。彼らは、このような極端な方法で戦いを実行することに伴うであろう矛盾と危険を示すためには、延々と議論をするのであった。そして彼らの有限な判断力をもって、これらすべての動きは全く愚かで不合理だと宣言するのであった。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ ]2 巻 1004）

**b. 自分の兄弟たちに対するギデオンの機転に満ちた行動の恩恵を説明しなさい（士師記 7:23–25; 8:1–3）。**

〔エフライムの人々〕はねたんで怒った。彼らは、ギデオンが自分の意志と判断で行なったものと思った。彼らは、イスラエルの勝利のうちに神のみ手を認めず、神の力とあわれみによって自分たちが救われたことを感謝しなかった。彼らは、この事実そのものによって、特別の器に選ばれる価値のなかったことを示した。……

ねたみの精神は、とかく、あおり立てられると争いを起こし、争闘と流血の原因になりやすい。しかし、ギデオンのけんそんな答えが、エフライムの男たちの怒りをしずめた。そして、彼らは心を和らげて家へ帰った。ギデオンは、原則に関しては堅く立って妥協せず、戦いに出ては、『大勇士』であったが、また、まれに見る思いやりの精神を表わした。」（人類のあけぼの下巻 200, 201）

**4. 立っていたが、その後、倒れる**

**a. 神の神政政治の諸原則を犯すことを拒むことにおいて、ギデオンの態度は、どのように模範的でしたか（士師記 8:22, 23）。**

**b. 彼の謙遜な慎み深さにもかかわらず、ギデオンはどのような過ちを犯しましたか。またわたしたちはこのことから、どのような警告に注意を払うべきですか（士師記 8:24–27）。**

「大きな争闘に続く不活動の期間は、苦闘の期間以上に大きな危険をはらんでいることがある。ギデオンは、このような危険にさらされた。彼は、不安な気持ちに襲われた。彼は、これまで、神の指示を実行することに満足していた。しかし、今、彼は神の指導を待たずに自分で計画を立て始めた。主の軍勢が大勝利を得ると、サタンは、神の働きをくつがえそうとして、その努力を倍加する。こうして、ギデオンの心に考えや計画が暗示され、イスラエルの人々はそれに迷わされていった。

ギデオンは、主の使いが彼に現われた岩の上で犠牲をささげるように命令を受けたので、自分は祭司としての役目を果たすように任命を受けたものと考えた。彼は、神の許しを得ようともしないで、適当な場所を備え、幕屋で行なわれている礼拝に似た制度を始めようとした。一般の人々の強力な支持もあったので、その計画の実行はなんの困難もなかった。彼の要求に従って、ミデアン人からぶんどった金の耳輪が全部彼の分け前として与えられた。人々はまた、ミデアンの王たちの美しく飾った衣服とともに、ほかにも多くの高価な品物を集めた。こうして備えられたものを用いて、ギデオンは大祭司が着ているものをまねて、エポデと胸当てをつくった。彼のしたことは、イスラエルと同様に彼と、彼の家のわなとなった。この神の許しを得なかった礼拝は、ついに、多くの人々を主から離し、偶像に仕えるようにさせたのである。ギデオンが死んだあとで、多くの者がこの背信に加わり、その中には彼の家族の者もいた。人々は、かつて彼らの偶像礼拝をやめさせたことのあるその同じ人によって、神から引き離されていった。

自分たちの言行が、どんなに大きな影響を及ぼすものであるかを自覚する者は少ない。親の過失は、それを行なった者が墓に横たえられて後も長く子々孫々に至るまで、最も悲惨な実を結ぶ。」（人類のあけぼの下巻 202, 203）

## 木曜日　2月15日

**5. 肉の腕に信頼しない**

**a. ギデオンの後の過ちは、どのように彼の死後、民に影響を及ぼしましたか（士師記 8:28, 33–35）。わたしたちの安全は、今日どこにありますか。**

「〔ギデオン〕は自分自身を自分の父の家で最も小さいものだと思っていた。人間の知恵は彼を選ぶことはなかった。しかし、神はギデオンのうちに高潔と道徳的勇気の人をご覧になった。彼は自己に信頼せず、神の教えに喜んで耳を傾け、このお方のご目的を実行した。主は高い地位の人、偉大な知性の人や豊富な知識の人により頼んではおられない。そのような人々はしばしば誇り高く、自己に満足している。彼らは神からの勧告なしに、自分自身で計画を考案し、実行する能力があると感じる。彼らは自らを真のぶどうの木から引き離し、こうして枯れた枝として、乾いた実のならないものとなる。

主は人の高慢に恥をこうむらせられる。このお方は、神聖な任命を受け、へりくだりと信頼をもって取りかかるとき、最も弱い努力、最も見込みのない方法に成功をお与えになるのである。神はわたしたちの信仰が耐えられないようなテストをなさることはない。このお方はわたしたちに十分な証拠を与え、わたしたちが自分の弱さのうちにあって、このお方の強さというみ腕によりかかり、完全にこのお方の力に信頼できるようにしてくださる。タラント、教育、感化力は聖霊の聖化する力の下にあって、神の奉仕に用いられることができる。しかし、イエス・キリストよりも、サタンの方がしばしば彼らの奉仕を受けるのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881年6月30日）

「最高の地位に立つ人が、誤った方向に導くかも知れない。最も賢明な人も過失を犯す。最も強力な人もよろめき、つまずくことであろう。上からの光が常にわれわれの道を照らす必要がある。『わたしに従ってきなさい』といわれた主になんの疑いもいだかずに、信頼することが唯一の安全な道である。」（人類のあけぼの下巻 203）

## 金曜日　2月16日

**個人的な復習問題**

**1. 今日、神のための「民兵」としてのわたしたちの義務を述べなさい。**
**2. 公の教派的な施設において、しばしばどのような過ちがなされますか。**
**3. なぜ神は、ミデアン人を打ち負かすために、このような単純な戦略をお選びになったのですか。**
**4. 謙遜に見える人々でさえ、ギデオンのどの過ちがわなとなるかもしれませんか。**
**5. わたしたちはなぜ、肉の腕に信頼することに対して警告されているのですか。**

# 勝利に満ちた家族を計画する

**「その子の育て方およびこれになすべき事はなんでしょうか。」（士師記 13:12）**

「親は彼らが持っている最高のものを育成することによって社会を形成し、将来の時代を進歩させる影響を及ぼすのである。……子供が悪に対する戦いにりっぱに勝てるように、生れ出る前からもその準備を始めなければならない。」（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 342）

推奨文献：　ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 342–348
ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 420–433

## 日曜日　2 月 18 日

### 1. 両親のための助言

**a. 主の御使によってマノアの妻に与えられた指示は何でしたか。また彼女とその夫は二人とも、どのように主に誉を帰すための熱心さを表しましたか（士師記 13:2–12; ヤコブ 1:5）。**

「すべての母親は、たびたび救い主のみもとに行って、『どのように子供をしつけ、子供に何をしたらよいかを教えてください』と祈らなければならない。母親は神がみことばの中にお与えになった教えに心を向けるとよい。そうすれば、必要に応じて、知恵が与えられることであろう。」（人類のあけぼの下巻 226）

「子供の幼年時代はもちろん後年の教育についてもその責任は母親ばかりでなくまた父親の上にもある。そのために 注意深く周到な準備をすることが父親にも母親にも緊急に必要である。父親となり母親となる可能性を持つ前に、男も女も身体の発育の法則すなわち生理衛生学や胎教や遺伝、衛生、衣服、運動、病気の手当てなどについて知らなければならない。彼らはまた知的な発達と道徳的な訓練について理解しなければならない。」（教育 325）

**2. 厳粛な責任**

**a. 二親にどのような勧告が繰り返されましたか。それはなぜですか（士師記 13:13, 14, 24）。**

「子供の幸福は母親の習慣に左右される。母親の食欲や情欲は原則によって支配されなければならない。子供を授けられる神の目的を果そうとするとき、避けなければならないこと、抵抗しなければならないことがある。もし妊娠中に婦人が放縦、利己主義、短気、苛酷であれば、その性質は子供の性格に反映し、多くの子供がほとんど打ち勝つことのできない悪い性癖を遺伝として受けるに至る。

しかし母親が堅く原則を守り、節制し克己し、親切で優しく、無我の精神を持っているなら、子供にもまた同じ

尊い性質を与えることができる。」（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 344）

「イスラエル民族を救済すべき子供のサムソンは良い遺伝を受けるだけでは不十分で、その後も注意深い訓練を受けなければならず、乳児期から厳格な節制の習慣を形成するように訓練されるべきであった。」（同上 349）

**b. なぜ親であることの特権は、非常に厳粛なことなのですか（詩篇 127:3）。**

「父親は、自分の子供の誕生前の自分の妻の取り扱いが、大いに妊娠中の母親の気質に影響し、また生まれた後に子供が発達させる品性に大いに関係するということを念頭に置くべきである。多くの父親は早く財産を得ようと腐心するあまり、より高い考慮が犠牲にされてきた。そして、ある人々は犯罪ともいえるほど母親とその子供をなおざりにし、あまりにもしばしば二人の命が富を蓄えたいという強い願望のために犠牲にされてきたのである。

多くの人々は、自分たちの悪行のための重い罰に直ちには苦しまず、自分たちのとった方針の結果に関して眠っている。妻の状態は、ときに奴隷状態と変わらず、ときには彼女も流行的な生活を送る資金を得るために体力を浪費し、夫と同罪である。このような者たちが子供を持つことは犯罪である。なぜなら、子供はしばしば、身体的、精神的、道徳的価値に欠けており、自分の親についてみじめで、けちで、利己的な印象を持つようになる。そして世は、彼らの粗悪さによってのろわれるのである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 3 巻 2 巻 428, 429）

**3. 霊的な成功のために労する**

**a. 家庭生活の中でより大きな平安を楽しむためにかぎとなるいくつかのことを挙げなさい（ピリピ 4:5–8）。**

「母親は、自分の子供の誕生の前に、しばしば体力を越えて働くことを許されてしまう。彼女の重荷と心配はほとんど減ることがなく、彼女にとって他のどの時よりも、休息の時となるべき、その期間が、疲労、悲しみ、そして憂鬱の時となる。自分の側でのあまりに大変な骨折りのために、彼女は自然が備える栄養を自分の子供から奪い、自分の血液を熱することによって、子供に質の悪い血液を与えるのである。子供はその生命力を奪われ、身体的また精神的力を奪われる。父親はどのようにして母親を喜ばせるかを研究すべきである。自分の家に額を曇らせて戻ることを自分に許してはならない。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 427, 428）

「自分の労働に関して理性をもって行動するというのが、男女の義務である。彼らは自分の精力を不要に使い尽くすべきではない。なぜなら、そうすることによって、彼らは自分自身に苦しみをもたらすばかりでなく、自分たちの過ちによって、彼らの愛する人々に不安、疲労、苦しみをもたらすからである。それほどの量の労働を要求するものは何であろうか。食べること、飲むことにおける不節制や富に対する願望が、この労働における不節制へと導いてきたのである。」（同上 429）

「母親は顔をいつも日光のように明るくしているべきである。できたらほほえんでいなさい。そうすれば、……子供の心はあなたの顔の光を反映する。」（ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｽﾄ・ﾎｰﾑ 498）

**b. イスラエルはなぜ緊急に勇敢な人々を輩出する必要があったのですか。そして今日、どのように似たような必要が存在していますか（士師記 13:1; エレミヤ 2:12–14; コリント第一 3:3）。**

「世界で最も欠乏しているものは人物である。それは、売買されない人、魂の奥底から真実で、正直な人、罪を罪とよぶのに恐れない人、磁石の針が南北を指示して変わらないように、良心が義務に忠実な人、天が落ちかかろうとも正しいことのために立つ人 、―そういう人である。

しかし、こういう品性は偶然にでき上がるものではない。それはまた神の特別な恩恵や天分によるものでもない。 高潔な品性は自己修練の結果である。それは肉欲を精神に従わせること、すなわち、神と人とに対する愛の奉仕のために自我を克服することによって達せられるのである。」（教育 54）

**4. 交わりの感化**

**a. サムソンは自分の両親に、どのような要求をしましたか（士師記 14:1–3）。自分たちの良い意図にも関わらず、サムソンの親はどのような危険を見過ごしていたかもしれませんか（コリント第一 15:33）。**

「ゾラの町は、ペリシテ人の国に近かったので、サムソンは、彼らと交わって仲よくなった。こうして、彼が若いときに結んだ親しい交わりが、彼の全生涯を暗くした。」（人類のあけぼの下巻 211）

「クリスチャン青年は、友だちをつくったり伴侶を選択したりするときに十分に注意を払わねばならない。純金だとばかり思っていたものが卑金属であったかもしれないので、注意しなさい。世俗的な交わりは、神への奉仕を妨げる。……決して品性を高めたり向上させたりすることのできないような相手との不幸な結合のために多くの魂が滅んでいく。」（青年への使命 438）

「父親と母親は、若い者の愛情が適当な相手の上に注がれるように、その愛情をみちびく責任が負わされていることを考えなければならない。親は、子供たちが、純潔で気高くなり、善なるもの真実なるものにひきつけられるように、自らの教えと模範と神の恩恵の助けによって、彼らの品性を幼い時から形成することに責任を感じなければならない。類は友を呼ぶとも、朱にまじわれば赤くなるともいわれている。幼い時から子供の魂に真実と純潔と善を愛する念を植えつけなさい。そうするときに、若い者は同じような特性を持っている者との交際を求めるようになる。」（同上 468）

「わたしたちは不信者である親たちに警告し、嘆願し、真理を提示するよう努めるのをやめないのであるが、彼らと交わりのうちに、付き合い、混じりあうことは、あなたの子供たちの破滅へと至るであろう。」（原稿ﾘﾘｰｽ 9 巻 74）

「ご両親がた、あなたがたは自分たちがどんなに大切な責任を負っているか、自覚しているだろうか。あなたがたは、子供どんな友人と交わり、どんな感化を受けているかも知らないで、だまってつきあうがままにさせているだろうか。子供たちもたち同士だけでいさせてはならない。」（家庭の教育 107）

**b. サムソンの生涯における不幸の責任はだれにありますか（ガラテヤ 6:5, 7）。**

「サムソンが忠実に、彼の親と同じように神の命令に従ったならば、彼はもっと気高く、幸福な一生を送ったことであろう。しかし、偶像教徒との交わりが、彼を腐敗させた。」（人類のあけぼの下巻 211）

## 木曜日　2月22日

**5. 得ることのできる指導**

**a. なぜ神は信徒が不信者と結婚することを禁じておられるのですか。このような結合の結果はこれまで何でしたか（土師記 3:5–8; 申命記 7:3; ネヘミヤ 13:23–26）。**

「決して、不信者と結婚してはならない。」（わたしたちの高い召し 257）

「主はご自分のみ言葉の中ではっきりとご自分の民は、神の愛と恐れを自分の前に持っていない人々と自らを結び付けてはならないと教えてこられた。そのような連れ合いが、正当に自分のものである愛情と敬意で満足することはまずない。彼らは絶えず、神を恐れる妻や夫から、神聖な要求の軽視を伴うような何らかの好意を得ようとする。信心深い人にとって、また彼が連なる教会にとって、世俗的な妻や世俗的な友人は、宿営におけるスパイのようなもので、キリストのしもべを裏切り、彼を敵の攻撃にさらす一つ一つの機会をうかがうのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1910 年 9 月 27 日）

**b. 伴侶を探すときに、クリスチャンは何を祈りをもって考慮すべきですか（コリント第二 6:14–18; コリント第一 7:39）。**

「昔、結婚の約束は、たいてい親たちが取りきめた。そして、これは神を礼拝する民の間の習慣でもあった。だれも愛することができない人との結婚をしいられたのではなかった。しかし、青年が自分たちの愛情を注ぐにあたって、経験があって、神を恐れる親たちの判断に従った。これに反した道をとることは、親に対する不敬、いや犯罪とすらみなされた。」（人類のあけぼの上巻 181, 182）

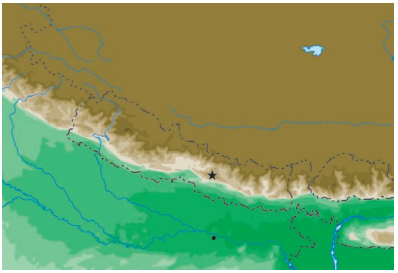
## 金曜日　2月23日

**個人的な復習問題**

**1. 子供たちに強力な基礎を与えるために将来の親は、どの知識を身につけるほうが良いですか。**
**2. どのような種類の状況は、子供を持つことを勧められないものとしますか。**
**3. 神を恐れる高潔さを発達させる秘訣を説明しなさい。**
**4. 若いころに形成する交わりについて、なぜ用心することが、それほど重要なのですか。**
**5. 伴侶を選ぶ際、どの指針が重要ですか。**

安息日 2018 年 3 月 3 日

# 北ブラジルにおける良いサマリヤ人の介護施設のために



「神よ、わたしが年老いて、しらがとなるとも、あなたの力をきたらんとするすべての代に宣べ伝えるまで、わたしを見捨てないでください。」（詩篇 71:18）。

良いサマリヤ人の介護施設と高齢者生活施設、すなわちアセンブラの施設（中央ブラジルフィールド総会）は、ゴイアス州のパドレ・ベルナルドの地方自治体に位置しています。首都のブラジリアからおよそ 21 マイル（34 キロメートル）のところです。この施設はもともと 2003 年に遠隔地に創立されましたが、後に、医療的な援助を必要とする住民の交通の便をよくするために現在の場所に移されました。今現在、30 人の住民と 12 人の専門家（看護婦、看護技術師、高齢者の介護者、そして公衆衛生職員）がいます。開所当初より、数名の新しい魂が、住民として滞在している間にメッセージを学んだ結果、バプテスマを受けました。介護施設には、自ら苦しい状況にあると思っていたり、あるいは親戚が適切な世話をしてあげられない年配の教会員が多く滞在しています。また、質の良さからこの施設に人々を委託する公の施設から送られてきた人々もいます。

わたしたちは工事中の大きな事業を進めています。すなわち、特別にこの重要な伝道に捧げられた 21,226 平方フィート（1,972 平方メートル）の新しい施設です。新しい建物には、現在の要求にこたえ、またさらに介護施設の住民の数を 30 から 40 へ拡張することが期待されています。わたしたちは、新しいもっと快適なベッド、交わりのためのもっと広い空間、また専門家たちがより高いレベルでの世話を提供できるためにより良い構造を得る予定です。働きはすでに進展していますが、まだ大きな資金的課題に直面しています。なぜなら、65 万米ドルほど予算に計上されているからです。わたしたちの素晴らしい神がこの働きの先頭におられることを信じています。そして、これを完成するために、わたしたちの兄弟、姉妹、友人たちの協力が緊急に必要なのです。ですから、この第一安息日献金に、わたしたちの教会によって運営されている福祉伝道のこの高尚な部門を覚えてくださるよう、皆さんにお願いいたします。確信をもって、皆さんを頼りにし、ここに心からの感謝の意を表します。

北ブラジル連合、良いサマリヤ人の福祉伝道

# 弱さから強さへ

**「あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。」（ローマ 13:14）**

「身体的には〔サムソン〕は地上で最も強い男であったが、自制、高潔、堅固さにおいては、彼は最も弱い男であった。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 10 月 13 日）

推奨文献：　人類のあけぼの下巻　212–218

## 日曜日　2 月 25 日

**1. 撒いたものを刈り取る**

**a. サムソンの不信者との結婚において、どのような苦い実が直ちに明らかになりましたか（士師記 14:7, 10, 20）。**

〔サムソン〕は自分の選んだ者と結婚することによって、神に栄光を帰すことができるか、それとも、自分の生涯によって完成しようとしている目的を達成できない地位に自分をおいているのかどうかをよく問うてみなかった。神をまずあがめようと求めるすべての者に、神は知恵を約束なさった。しかし、自己を喜ばせようとする者には、なんの約束もない。……

サムソンは、彼の結婚式のときに、イスラエルの神を憎む者と親しく交わった。このような関係に自分から進んではいる者は、彼の仲間の習慣や風習に、いくぶんかは従わねばならぬと感じるのである。こうして費やされた時間は浪費以上にいけなかった。そこでは、原則のとりでを破壊し、魂の要塞を弱める思いをいだき、言葉が語られていた。

サムソンが神の戒めを犯して得た妻は、結婚の祝宴が終わる前に、夫を裏切るのであった。サムソンは、彼女の不信を怒って、しばらく彼女を捨ててひとりでゾラの家に帰った。後に、気を取りもどして花嫁のところへもどってみると、彼女は他人の妻になっていた。」（人類のあけぼの下巻 212, 213）

**1. 神の恵みを拒む人類**

**a. ペリシテ人に対するサムソンの復讐は、神がイスラエル救出のために彼にお与えになった並ぶもののない力の見本を、どのように示しましたか（士師記 15:4–8, 13–15）。**

**b. サムソンは士師として、どれくらいの間、イスラエルで治めましたか（士師記 15:20）。人性がしばしば神のご計画を妨げることを、人々はどのように示しましたか。**

「もしイスラエルの人々がサムソンと一つになって勝利を完成していたら、彼らは、このとき圧迫者の力から自由になっていたことであろう。しかし、彼らは、おじけて臆病になった。彼らは、神が彼らにお命じになった働きを怠って、異教徒を追放しなかった。そして、異教徒の堕落した風習に合流し、彼らの残酷な行為を大目に見、直接自分たちに対してなされるのでないかぎり、彼らの不正をさえ黙認した。彼らは、圧迫者の支配下におかれたとき、もし神に従ってさえいたらのがれることができたはずの堕落に、やすやすと陥った。主が彼らのために救済者をお立てになったときでさえ、彼らは、しばしばその人を捨てて、彼らの敵に合流してしまったりしたのであった。」（人類のあけぼの下巻 214）

**c. サムソンの背信にもかかわらず、神は彼にどのように憐れみを示されましたか（士師記 16:1–3）。**

「サムソンは、すでにペリシテ人の妻をめとって、神の戒めを犯したが、彼は、また、彼を憎悪している敵、ペリシテ人の間にいって、道ならぬ欲望を満たした。彼は、ペリシテ人を恐怖に陥れた自分の大力をたのみとして、臆するところなく、ガザの遊女を訪れた。彼が町に来たことを知った町の人々は、なんとかして報復をしようとした。彼らの敵は、彼らのすべての町々の中の最も強固な町の城壁の中にしっかりと閉じこめられていた。彼らは、まちがいなく獲物を捕えることができると思い、朝まで待って、勝利の喜びを味わおうとしていた。サムソンは、夜中に目がさめた。彼は、ナジル人の誓いを破ったことを思い出して、良心に責められ、心が苦しめられた。しかし、神は彼がこのような罪を犯したにもかかわらず、彼をあわれみ、お捨てにはならなかった。彼の大力は、また、ここで彼を救った。」（人類のあけぼの下巻 214, 215）

### 3. 悪循環

**a. サムソンはどの罪にとらわれましたか（士師記 16:4–6; ガラテヤ 6:8）。どのようにこの罪が彼の破滅となりましたか。**

〔サムソン〕は、ペリシテ人のところへは出かけていかなかったが、彼は、彼の身を破滅に陥れる肉の快楽を求め続けた。……ソレクの谷は、ぶどう畑が有名で、これは、また、心の落ちつかないナジル人にとっては誘惑であった。彼は、すでに酒を飲み、純潔と神とに彼を結びつけていた今一つのきずなを破っていた。ペリシテ人は、敵の行動を絶えず見張っていた。彼が新しい女を愛して堕落したときデリラを用いて、彼を破滅させようとした。

ペリシテの各地方の代表者から成る一団が、ソレクの谷を訪れた。彼らは、サムソンが大力を持っているまま彼を捕えようとはせず、できれば彼の力の秘密がどこにあるのかを聞き出そうとした。そこで、彼らは、それを見つけ出して知らせるようにデリラを買収した。」（人類のあけぼの下巻 215）

**b. サムソンが陥った悪循環から、わたしたちはどの警告に注意を払うべきですか（箴言 5:21, 22; 7:10, 22, 23; ローマ 13:14）。**

「サムソンののぼせ上りは、ほとんど信じがたいように思われる。最初、彼は秘密を知らせるほど完全に夢中にはなっていなかった。しかし、彼は故意に魂の裏切り者の網へと入り込んでいった。そしてその網は彼の一歩ごとに彼の周りに近く巻き付いたのであった。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 10 月 13 日）

「この魅力的な女との交わりによって、イスラエルの士師は彼の民の安寧のために神聖に捧げられるべき貴重な時間を浪費した。しかし、最強の者さえ弱くする盲目的な情欲が理性と良心の支配権を握ってしまった。」（同上）

「サムソンは自分の危機において、ヨセフが持っていたのと同じ力の源を持っていた。彼は自分の望む通りに正か悪を選ぶことができた。しかし、神の力をつかむ代わりに、彼は自分の性質の野性的な情欲が、完全に支配権を握るのを許してしまった。理性的な力はゆがめられ、道徳が堕落した。神はサムソンを大いなる責任、誉、有用性の地位へ召されたのであった。しかし、彼はまず神の律法に従うことを学ぶことによって、治めることを最初に学ばなければならなかった。」（同上）

**4. 穴の底**

**a. サムソンの霊的な弱さに、どのような苦い結果が続きましたか（士師記 16:15–21）。**

「デリラは、サムソンの髪の毛をそったときに、彼を苦しめ痛みを与えて、その力をためした。ペリシテ人は、サムソンの力が完全になくなったことを十分確かめないうちは近づいてこなかったからである。こうして、彼らは、サムソンを捕えて、両眼をえぐってガザへ連れて行った。そこで、彼は獄屋のかせにつながれて重労働を課せられた。

イスラエルの士師であり、勇士であった彼が、今は、力なく、盲目になり、獄屋につながれて、最もいやしい仕事をさせられるとは、なんという変わりようであろう。彼は、自分の聖なる任務の条件を少しずつ破っていったのである。神は、彼を長く忍耐なさった。しかし、彼が自分の秘密を明かすほどに罪の力に身をゆだねてしまったときに、主は、彼を去られたのである。彼の長い髪だけに力があったのではなくて、それは、彼が神に忠誠を尽くしているしるしであった。そして、その象徴が、肉欲をほしいままにして犠牲にされたときに、それが象徴していた祝福もまた取り去られた。」（人類のあけぼの下巻 216, 217）

**b. サムソンの生涯の中で最も失望させる時に対してみせたサムソンの反応は、わたしたち一人びとりにどのように望みをもたらしますか（ルカ 5:32）。**

「サムソンは、ペリシテ人の見せ物となって、苦しみとはずかしめを受け、これまでになかったほどに、自己の弱さを知った。そして、彼は、苦難によって悔い改めるに至った。」（同上 217）

**c. 罪人に対する神の驚くべき憐れみを示しつつ、何が身体的にサムソンの身に起こり始めましたか（士師記 16:22）。どのような態度がサムソンをとらえ始めましたか（マルコ 9:24）。**

「〔サムソンの〕髪はだんだん伸び始めた。それは彼のはなはだしい力が戻っていることを示唆した。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年」10 月 13 日）

## 木曜日　3月1日

**5. 神の憐れみの勝利**

**a. サタンはどのように、またなぜ、神の衰弱した救出者の不名誉な状態をあざ笑ったのですか（士師記 16:23–25）。**

「ペリシテ人は自分たちの大勝利に有頂天になった。彼らは誉を自分たちの神々に帰し、彼らをイスラエルの神より優れているとほめたたえた。戦いは、サムソンとペリシテ人の間ではなく、今やエホバとダゴンの間のものとなった。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 10 月 13 日）

**b. サムソンは、自分の手を引いて導いている者に、どのようによく考えた上での要求をしましたか。サムソンは神に向かってどのような祈りをしましたか（士師記 16:26–28）。**

「しばらくして、サムソンは、疲れたようなふりをして、神殿をささえているまん中の二本の柱にもたれて、休むことを許してほしいと願った。そうして、彼は、神に黙祷をささげた。『ああ、主なる神よ、どうぞ、わたしを覚えてください。ああ、神よ、どうぞもう一度、わたしを強くして、‥‥ ペリシテびとにあだを報いさせてください』（士師記 16:28）。」（人類のあけぼの下巻 217）

**c. サムソンに救う信仰を与えるために、何をお用いになりましたか。どの「偉人」にこの弱い男も含まれていますか（士師記 16:30; ヘブル 11:32, 33）。**

## 金曜日　3月2日

**個人的な復習問題**

**1. サムソンの結婚の結果は、なぜ少しも驚くべきことではないのですか。**
**2. 結婚はサムソンを、どの霊的な道へと導きましたか。**
**3. サムソンとデリラの歴史は、今日、さまざまな方法において、どのように繰り返されていますか。**
**4. サムソンは自分の目を失った後、どのような変化がありましたか。**
**5. 神はサムソンの生涯の終わりに、どのように、またなぜ彼の祈りを祝福されたのですか。**

# 主に求める

**「彼女はみごもり、その時が巡ってきて、男の子を産み、『わたしがこの子を主に求めたからだ』といって、その名をサムエルと名づけた。」（サムエル記上 1:20）**

「母親が自分の子供に及ぼす日ごとの感化力は、彼らを永遠の命か、永遠の死のために準備している。彼女は自分の家庭において、説教壇の牧師より、あるいは王座に座す王よりも決定的な力を発揮する。神の日が、真理と改革のひるまない擁護者であった人々のために、世が信心深い母親に負うところがどれほど大きいかを明らかにするであろう。」（キリストを映して 195）

推奨文献：　人類のあけぼの下巻 220–229

## 日曜日　3月4日

**1. 不妊と裏切り**

**a. ハンナ、エルカナの妻に、どのような悲しみがもたらされましたか（サムエル記上 1:1, 2）。**

「自分の選んだ伴侶に対するエルカナの愛は、深く、変わることがなかった。しかし、彼らの家庭の幸福に雲が影を落とした。家庭は、子供の声によって喜ばしいものとされなかった。ついには自分の名前を残したいという強い願望が、他の人々を導いてきたように、夫を導いて、神が承認されなかった道―家族に第二の妻、すなわち第一の妻に次ぐ者となるべきものを入れるという道がとられたのである。この行為は神を信じる信仰の欠如によって促されたものであり、邪悪な結果を伴った。これまで一致し調和していた家族の平和が壊された。ハンナの上には押しつぶすような重さをもって打撃が加えられた。一切の幸福が彼女の生涯から永遠に一掃されたかのように思えた。彼女はつぶやかずに自分の試練に耐えたが、彼女の悲しみはそれにもかかわらず、鋭く苦いものであった。

新しい妻ペニンナは、劣った精神と、妬みと嫉妬の気質を持つ女であった。年月が過ぎ、息子や娘が家族に加えられると、彼女は誇り高く、尊大になり、自分のライバルを侮辱と横柄さをもって扱った。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 10 月 27 日）

**2. 誤って判断され、誤解される**

**a. シロにおける祭の季節に見られたエルカナの家族の代表的な光景を説明しなさい（サムエル記上 1:3–5）。**

「神の礼拝と関連した聖なる祭の最中でさえ、〔エルカナの〕家庭をのろってきた邪悪な精神が侵入した。他の犠牲が捧げられてから、酬恩祭を捧げるのが常であった。これの決められた分が祭司に捧げられ、それから、捧げた者は、彼の家族の一人びとりに残った分け前を配った後に、厳粛でありながら喜ばしい祭において彼らと一緒になった。これらの機会に。エルカナは自分の子供たちの母親に、彼女と彼女の息子や娘のひとりずつに分け前を与えた。それから自分の第一の、最も愛する妻であるハンナへの特別な敬意のしるしとして、彼は彼女に二倍の分を与えた。これが第二の妻の妬みと嫉妬をかきたて、彼女は大胆に神から大いに恩寵を受けた者として自分の優位性を強く主張した。そして、彼女は嘲って、ハンナに子供がいないという事実を、彼女に対する主のご不興の証拠として指し示した。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 10 月 27 日）

**b. ハンナの苦しみがどれほど悲痛なものであったかを述べなさい（サムエル記上 1:6, 7）。**

「この光景は年ごとの集まりの時ばかりでなく、ペニンナにとって自分のライバルを犠牲にして自分を高める状況が備えられるときはいつでも、何度も繰り返された。この女の一連の行動は、ハンナにとって、ほとんど耐えがたい試練に思えた。サタンは神の忠実な子のひとりを悩ませ、もし可能であれば、憤慨させ、破滅させるための自分の代理人として彼女を用いた。ついに、彼女の敵の嘲りが年ごとの祭のときに繰り返されたときに、ハンナの勇気と不屈の精神は折れてしまった。自分の感情を隠し切れずに、彼女は思いっきり泣いた。至る所に見られる喜びの表現は、彼女にとって嘲りに思えた。彼女は祭にあずかることができなかった。」（同上）

**c. エルカナはどのように自分の大事な妻を慰めようとしましたか。しかし、むだでしたか（サムエル記上 1:8）。**

「エルカナにとって、〔ハンナの〕気持ちを十分に理解することも理由を判断することも不可能であった。」（同上）

**3. 忠実で親切**

**a. ハンナの品性と彼女が自分の困難のために求めた解決策からわたしたちは何を学ぶべきです（サムエル記上 1:9–11; 詩篇 50:15）。**

「謙遜、良心的であること、そして神へ固くより頼むことが、〔ハンナの〕品性における支配的な特徴であった。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 10 月 27 日）

「ハンナは夫の賢明でない結婚のために彼を責めることはしなかった。彼女が悲しみを分かつことができる地上の友人はなかった。彼女はそれを自分の天父へ持っていき、このお方からのみ慰めを求めた。……祈りには強力な力がある。わたしたちの偉大な敵は絶えず悩む魂を神から引き離しておこうと努力している。最もつつましい聖徒による天への一つの嘆願は、サタンにとって閣僚の法令や諸王の命令よりも非常に恐ろしいものである。

ハンナの祈りは死すべき人間の耳には聞かれなかったが、万軍の主の耳に入った。」（同上）

**b. 彼女のライバルの悪意を通して、誤って判断された後、ハンナは今、神の家で大祭司から、どのように誤って判断されましたか（サムエル記上 1:12–14）。**

「宴会のお祭り騒ぎが、イスラエルの民の間で、真の信心深さにほとんどとって代わっていた。不節制の実例が、女性の間でさえ、頻繁にあることだったため、エリは譴責に値すると考えたことに対処しようと決意した。」（同上）

**c. ハンナの高尚な応答は、どのようにキリストに似た品性の豊かな恵みを表していますか（サムエル記上 1:15, 16）。**

「ハンナは神と交わっていたのであった。彼女は自分の祈りが聞かれたと信じた。そしてキリストの平安が彼女の心を満たした。彼女は優しく繊細な性質であったが、神の家で不正な酩酊をとがめられたときに、悲しみや、また怒りに屈することがなかった。主に油を注がれた者へしかるべき敬意を払いながら、彼女は静かに告発を退け、自分の感情の原因を述べた。」（同上）

**4. サムエルの最初の三年間**

**a. ハンナの祈りに答えて、主は、どのような奇跡を与えてくださいましたか（サムエル記上 1:17–20）。**

**b. 若いサムエルを教えたハンナの徹底した指導から、わたしたちは何を学ぶべきですか（箴言 22:6）。**

「預言者サムエルの最初の三年間、サムエルの母親は、善悪をはっきり区別するよう注意深く教えた。彼女は、子供をとりまく身近なものによって、子供の思いを創造主に向けるよう努力した。」（家庭の教育 198）

「最初の三年間は小さな細枝を曲げる時期である。母親はこの時期の持つ大切な意味を理解しなければならない。基礎がすえられるのはこの時なのである。」（同上 194）

「また神から教育された子供であり、高潔なさばき人であり、イスラエルの聖なる学校の創始者であったサムエルを生んだのは、祈りと自己犠牲の人、神の霊感を受けた婦人ハンナであった。」（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 343）

**c. わたしたちは神に対してなされた誓いの真剣さについて、ハンナから、何を学ぶべきですか（サムエル記上 1:11, 21–28; 伝道の書 5:4, 5）。**

「幼児が母親から離れられるほどになるやいなや、ハンナは、誓いを果たした。ハンナは、世の母親の持つ愛情の限りを尽くして、自分の子を愛した。日ごとにむすこの力が強くなり、子供らしい片言に耳を傾けるにつれて、彼女は、ますます深くサムエルを愛した。彼は、ハンナのひとり子であり天からの特別の賜物であった。しかし、彼女は、サムエルを神にささげた宝として受けた。そして、神ご自身のものを与え主なる神に返さず、留めておこうとはしなかった。

ハンナは、もう一度、夫と共にシロに出かけて、神の名のもとに、彼女の尊い賜物を祭司にささげ……た。」（人類のあけぼの下巻 222）

## 木曜日　3月8日

**5. 讃美と預言の歌**

**a. ハンナは公に力をもって、何を宣言するよう導かれましたか（サムエル記上 2:1）。**

「〔ハンナは、〕自分の感謝のしるしとして、神聖な憐れみと愛情深い親切を公に認めないではいられないと感じた。霊感が彼女におとずれ、はにかみ屋で臆病な女性であったにも関わらず、彼女の声が、今や民の会衆の間で、神の賛美を響かせているのが聞かれた。……

角はある動物においては攻撃や防御の武器である。この比喩を用いることによって、ハンナは自分の救出が神からのものであることを認めるのであった。彼女の歓喜において、虚しい自己の勝利はない。彼女は、サムエルに喜んだのではなく、自分自身の繁栄にでもなく、主にあって喜んだのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 10 月 27 日）

**b.　どのように、ハンナの言葉はわたしたちに慰めと知恵をもたらしますか（サムエル記上 2:2–10）。**

「〔サムエル記上 2:3 引用〕。ここでペニンナの自慢げで無作法なふるまいが言及されているが、ハンナは真の信心のすべての敵に対してもまた語っているように見える。彼らは自分自身に栄光を帰し、信仰の子らを侮辱し、蔑むのである。誇りと自慢は神を欺くことはできない。このお方はすべての人の心と生活をご存じである。このお方によって行為は測られている。このお方は人の品性を識別し、彼らの動機を秤で量っておられる。このお方が人の益とご自分の栄光のためになることを認められれば、ご自分の民のために介入されるのである。時が来れば、彼は義人に報いて、悪人を罰せられる。」（同上）

## 金曜日　3月9日

**個人的な復習問題**

**1. 多くの人々は、どのようにエルカナが犯した種類の間違いをしばしば繰り返しますか。**
**2. わたしたちは自分の生涯における「ペニンナのもの」について、何をすべきですか。**
**3.　わたしたちはどのような方法で、知っているだれかを誤って判断する罪を犯すかもしれませんか。**
**4.　子供の最初の三年間の親の働きを説明しなさい。**
**5. 何がハンナを促して、彼女がしたような公の宣言をさせたのですか。**

# 捧げられた子供

**「幼な子でさえも、その行いによって自らを示し、そのすることの清いか正しいかを現す。」（箴言 20:11）**

「主はサムエルをごく最初の幼少時からお受入れになった。なぜなら、彼の心が純潔であったからである。彼は神にささげられた、聖別された供え物であり、主は彼を光の通路とされた。」（両親、教師、そして生徒への勧告 537）

推奨文献：　人類のあけぼの下巻 230-238

## 日曜日　3 月 11 日

**1. 仕えるために召される**

**a. 宮での彼の新しい生活において、彼は何をしましたか（サムエル記上 2:11, 18）。ハンナはサムエルのために何をしましたか。また神はハンナをどのように祝福されましたか（サムエル記上 2:19–21）。**

「レビ人は、25 才になって初めてそれぞれの任務につくのが慣例になっていたが、サムエルは例外であった。サムエルには、毎年、さらに重要な任務が負わせられた。そして、彼がまだ子供であったうちから、聖所の働きに献身したしるしとして、布のエポデをつけていた。サムエルは、幕屋の働きをするために連れてこられたときは、幼かったけれども、そのときでさえ、彼の力量に応じた任務を負わせられて、神のご用を果たした。初め、このような仕事は、非常にいやしいことで、必ずしも快いものではなかった。しかし、彼は、最善を尽くして、喜んでその務めを果たした。」（人類のあけぼの下巻 228）

「自分の子供と離れたときに、忠実な母親の心遣いが止んだのではなかった。彼は彼女の祈りの対象であった。毎年、彼女は小さな上着を彼のために作った。そして彼女が自分の夫と年ごとの犠牲のために訪れるとき、彼女はそれを自分の愛のしるしとして子供に与えた。その上着の一針ごとに、彼女は彼が純潔で、高尚で、真実であるように祈りを口にした。彼女は彼が偉大になることではなく、真剣に彼が善い者になるよう嘆願したのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 11 月 3 日）

**2. エリとその家族と共に**

**a. サムエルの若い時について、何と記されていますか（サムエル記上 2:26）。子供サムエルと大祭司エリの間の関係は何でしたか。**

「サムエルは、エリの指導のもとにおかれた。そして、サムエルの美しい品性にひかれて、年老いた祭司は、非常に彼をかわいがった。サムエルは、親切、寛大、従順、ていねいであった。エリは、自分の子供たちのわがままに心を痛めていたが、サムエルが彼にゆだねられてから、休息と慰めと祝福とが与えられた。サムエルは、よく手助けをし、愛情がこまやかであった。そして、エリはこの地上のどの父親よりも優しくサムエルを愛した。国家の政治をつかさどる者とほんの少年との間に、このような暖かい愛情が通い合うとは、不思議なことであった。エリが老齢のためにだんだん衰弱してくると、彼自身のむすこたちの放縦な生活を憂えて苦しむのであったが、彼は、サムエルに慰めを求めた。」（人類のあけぼの下巻 226, 228）

**b. 若いサムエルは大祭司の施設で生活していたにもかかわらず、わたしたちはそこでの環境について何を悟るべきですか。どのような深刻な警告がエリに与えられましたか（サムエル記上 2:12, 22, 27–31）。**

「サムエルの青年時代は、幕屋において厳粛に神の礼拝に捧げられて過ぎていった。しかし、ここでさえ、彼は悪影響や罪深い実例がなかったわけではなかった。エリの息子たちは聖書の中で『よこしまな人々（ベリアルの息子たち）』と述べられている。彼らは神を恐れず、自分の父親を尊びもしなかった。しかし、サムエルは彼らの仲間になろうとはせず、彼らの悪い方法に倣おうともしなかった。彼が絶えず務めたのは神が自分になってほしいと望まれる者になることであった。これはすべての青年の特権である。神は小さな子供たちでも、ご自分の奉仕へ献身するとき、喜ばれる。彼らはクリスチャンになろうとするその努力において失望させられるべきではない。……

神を愛し、恐れる最も若い子供は、偉大な救いをなおざりにする最もタラントに恵まれ、学識のある人よりも、神の御目に偉大なのである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 11 月 3 日）

「人々が忠誠を公言した多くの君主たちがいるにもかかわらず、すべての人類はただ二人の主人のうちの一人に仕えているのである。すなわち、光の君か闇の君である。サムエルは前者に仕え、エリの息子たちは後者に仕えた。」（同上）

**3. 単に選択肢としての従順？**

**a. エリの問題と、わたしたちが今日どのように同じ過ちを繰り返す罪を犯しているかもしれないかを説明しなさい（サムエル記上 2:22–25; イザヤ 3:12（上句））。**

「エリは民の罪や過ちを認めて、譴責するのに早かった。時にはハンナの場合のように、不正な譴責を与えるほどであった。しかし、自分自身の息子たちの罪は彼にとって、他の人々の罪ほど不快ではなかった。彼の不当な愛情によって、彼はいつでも彼らの逸脱した行動の言い訳を見出す用意ができていた。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 11 月 24 日）

「神の律法のうちに、エリは自分の子供たちを教えてきた。そして彼らに自分自身の生活においてよい模範を示してきた。しかし、これは彼の義務のすべてではなかった。神は彼に、父親としてまた祭司として、彼らが自分自身の歪んだ意志に従うことを抑制するよう要求された。これを彼はしなかった。」（同上 1881 年 11 月 10 日）

「〔エリは〕従順を強制しなかった」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1881 年 8 月 30 日）

**b. わたしたちは自分の子供たちのうちに霊的な弱さを認めるとき、何を自覚する必要がありますか（箴言 26:2; 申命記 6:6, 7）。**

「すべての真剣なクリスチャンの心のうちに、次の質問が起こる、『なぜ、ああ、なぜ聖書とキリスト教の教えの国で、魂の敵がわたしたちの青年の上にこれほど力強く、これほど抑制されずに働くことができるのだろうか』。理由は明白である。親が自分の厳粛な責任をなおざりにしているからである。彼らは神のために、幼少時から自分の子供を訓練し、彼らの邪悪な願望を抑制し、親の権威に対して従順を強制するという働きにおいて、真剣でもなければ、辛抱強くも、忠実でもない。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 11 月 3 日）

「母親はどんな場合でも、親につけこむようなことを、子供に許してはならない。この権威を持ち続けるためには、手荒な手段を使う必要はない。しっかりした、むらのないやり方と子供にあなたの愛を確信させるようなやさしさがあれば、目的を達成することができる。……

子供たちが両親を敬わない態度を示すことを決して許してはならない。子供のわがままな意志を黙って許してはならない。子供の将来を幸福にするためには、親切でやさしく、しかもしっかりしたしつけが必要である。」（家庭の教育 72）

**4. 高い召しにふさわしい**

**a. エリの息子たちとは対照的に、すべての子供は宮における小さなサムエルの経験から何を学ぶことができますか（箴言 20:11; 詩篇 71:17）。**

「日常の小さな義務をくりかえして行なうことは、主が子供たちのために指示された道であり、それは、彼らが忠実に力ある奉仕をするための訓練を受ける学校であることを、子供たちに教えるならば、彼らの仕事は、どんなに楽しく尊いものとなることであろう。すべての義務を主のためにするように行なうことは、どんなにいやしい仕事をも魅力あるものにし、地上の働き人を、天で神のみこころを行なう天使たちと結合させるのである。」（人類のあけぼの下巻 228, 229）

**b. なぜわたしたちは、サムエルが高齢のエリに対して恐るべき証人であった方法から、霊感を受けることができますか。またどのようにしてのみ、これが可能ですか（コリント第二 2:14–17）。**

「エリの心は自分の息子たちの邪悪なふるまいによって不安と自責の念に満たされたが、若いサムエルの高潔さと献身のうちに安堵と慰めを見出した。いつも助ける用意ができており、変わらず忠実であることが、心労の祭司の重荷を軽くした。エリはサムエルを愛した。なぜなら、彼は神の恵みと愛が彼にとどまっていることを認めたからである。……

サムエルが成長するにつれ、彼の親の心配はますます激しくなった。彼がエリの息子たちに関して報告されている邪悪さによって汚されるのではないかとの申し立てが多くなされた。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 12 月 15 日）

**c. 神がサムエルを召された驚くべき物語を述べなさい（サムエル記上 3:1–10）。**

「12 歳にすぎないとき、ハンナの息子はいと高き者から特別な任務を受けた。……サムエルは三回呼ばれた。そして三回、彼は同じように答えた。それから、エリは不思議な召しが神のみ声であることを確信した。そのとき、大祭司の心にはなんという感情がかき立てられたことであろう！神はご自分の選ばれた僕、白髪の人を通り過ごして、子供と語られたのである。」（同上）

## 木曜日　3月15日

**5. 耳が鳴るメッセージ**

**a. 神はサムエルにどのメッセージをお与えになりましたか。そして男の子はそれを伝えることについて、どのように感じましたか（サムエル記上 3:12–15）。**

「サムエルは、エリの息子たちのたどっていた邪悪な道を知らないわけではなかった。しかし、彼は主が自分にこれほど恐ろしいメッセージを託されたために恐れと驚きに満たされた。彼は朝目覚めて、いつも通り自分の義務を果たしに出ていったが、この若い心には重荷があった。この試みの時に、彼は自分の両親の同情と勧告をどれほど熱心に切望したことであろう！主は彼に恐るべき非難を祭司やその息子たちに知らせるようにお命じになったのではなかった。であるから、彼は静かにしていて、できるだけ、エリのいるところを避けた。彼は、何らかの質問によって、自分が非常に愛し尊敬している人に対する神聖なさばきを宣言せざるを得なくなるのではないかと震えた。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881年12月15日）

**b. いつものように敬意を表し、従順に、サムエルはまもなく、何をしなければなりませんでしたか。わたしたちは与えられたメッセージを思案するとき、何を考慮すべきですか（サムエル記上 3:18）。**

「すべての時代において、人が神の律法を犯したときに神の裁きが地上に訪れた。そうであれば、現代、蔓延している悪を眺めるときに、何を予期しなければならないことであろう。……教会や国家で認められた指導者たちの多くは、神の律法、すなわち神ご自身の御座と御名と同様に神聖な律法を破り、またそれを破るように他の人々に教えている。今こそ、主ご自身が地上におけるご自分の権威を行使されるべき時である。……このお方はご自分の保護とみ摂理の守りを取り除き、人の子らの上にご自分の裁きをもたらされる。」（同上）

## 金曜日　3月16日

**個人的な復習問題**

**1. 自分の親のいない宮に残されたにもかかわらず、なぜサムエルは安全でしたか。**
**2. エリはなぜサムエルをそれほどまでに高く評価することができましたか。**
**3. 今日、親はどのようにエリのようになるかもしれませんか。**
**4. 堕落した宮の中におけるサムエルの純潔さのかぎをいくつか挙げなさい。**
**5. 神があらゆる時代において求めておられる説明責任を、何が示していますか。**

# イカボデからエベネゼルまで

**「サムエルはイスラエルのために主に叫んだので、主はこれに答えられた。」（サムエル記上 7:9 下句）**

「サムエルはイスラエルに、神聖な恩寵を得るためには彼ら自身になすべきことがあるという事実を印象づけようと努力した。彼らは自分たちの罪を悔い改め、自分たちの偶像を捨てなければならなかった。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1882 年 1 月 26 日）

推奨文献：　人類のあけぼの下巻 239, 240
教会への証 4 巻 516, 517

## 日曜日　3 月 18 日

**1. 国家に差し迫った苦悩**

**a. 忠実なサムエルはどの賜物のために知られるようになりましたか（サムエル記上 3:19, 21）。**

**b. 一方、エリが自分の家に対する譴責に、謙遜に服してひれ伏したにもかかわらず、神は状況をどのようにご覧になりましたか（伝道の書 8:11）。**

「しかし、エリは、真の悔い改めの実を示さなかった。彼は、罪を告白したが、その罪を捨てなかった。主は、何年も刑罰をくだすことを延ばされた。その間に、過去の失敗を償う多くのことができたのであったが、年をとった祭司は、主の聖所を汚し……ていた悪を正すために、効果的な手段を取らなかった。……祭司たちと同様に、人々も警告を無視した。イスラエルのなかで悪が公然と行なわれるのを知っていた回りの国々の民も、さらに大胆に偶像礼拝を行ない、犯罪を続けた。彼らは、もし、イスラエルの人々が忠誠を尽くしていたならば感じたはずの罪の意識を、自分たちの罪に対して持たなかった。しかし、報復の日は接近していた。神の権威は退けられ、神の礼拝は、無視され、軽べつされた。それで、神のみ名の名誉を維持するために、神が手を下さなければならなくなった。」（人類のあけぼの下巻 241）

**2. 象徴を呼び出す**

**a. イスラエルは霊的に弱い状態にあったときに、どのような愚かな決断をしましたか。またこの決断に対する責任はだれにありましたか（サムエル記上 4:2, 4）。**

「イスラエルの人々は、神の指示も仰がず、大祭司または預言者の同意も得ないで〔ペリシテ人と戦うために出ていく〕この遠征に着手した。〔サムエル記上 4:2 引用〕。敗北して失望した軍勢が陣営に帰ってきたときに、イスラエルの長老たちは言った、『なにゆえ、主はきょう、ペリシテびとの前にわれわれを敗られたのか』（サムエル記上 4:3）。国家に神の刑罰が下るときは、熟していた。それにもかかわらず、彼らは、自分たちの罪がこの恐ろしい災いの原因であることを悟らなかった。」（人類のあけぼの下巻 242）

「自分たちに敗北をもたらした罪を告白して、捨てる代わりに、〔イスラエル人たちは〕今、勝利を得るための何か別の手段を考案し始めた。それから、彼らは神の契約の箱のことを思い出した。祭司たちが民の前にそれを担いでヨルダン川へ入っていったとき、なんという不思議がなされたことであろう！いかにその水が分かれ、大群衆のために安全な道を残したことであろう。彼らはまたそれをどのように担って厳粛な沈黙のうちにエリコの町のまわりを七日間まわり、それからラッパが鳴り響き、民が大声で叫んだとき、巨大な壁が完全に倒れたかを思い出した。

「これらの栄光に満ちた勝利を思い返すと、全イスラエルは新たな希望と勇気を吹き込まれた。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 12 月 22 日）

**b. 契約の箱について民がいだいていた誤解を示しているものは何でしたか。またわたしたちは今日、どのように同じわなに陥るかもしれませんか（サムエル記上 4:5）。**

「〔イスラエルは〕契約の箱に神聖さを与えるのは、ただ神の契約だけであること、またその存在は彼らがその律法に従うときにのみ繁栄をもたらすのだということを考えなかった。……

しかし、わたしたちは現代において、多くの人の側に同様の盲目と不注意を認めるのである。……神は現代のイスラエルに悔い改めと生活の改革へ導くための警告、勧告、譴責を与えてこられた。しかし、あまりにもしばしば、これらは一瞬の印象しか生じさせなかった。警告された人々は間もなく自分自身の方法へ戻った。……神の律法の要求を認めることと、そのすべての要求に忠実で自発的な従順を捧げることとは、まったく別のことである。」（同上）

### 3. 誤って導かれた確信

**a. 何を思って、ペリシテ人たちは契約の箱を保持しましたか。戦いの結果は何でしたか(サムエル記上 4:6, 10)。なぜ、契約の箱はイスラエルの人々に役に立たなかったのですか。**

「〔イスラエルは〕、従順な信じる民に賜わる神聖なご臨在と、契約の箱、すなわち、そのご臨在の象徴にすぎないものとの区別を見逃した。そのため、彼らは自信をもって、神だけがお授けになることのできるこれらの祝福を求めて、契約の箱に目を向けた。彼らは主が彼らのためにあれほどまでに力強く働かれたときのイスラエルの状態と、今の自分たちの状態との間の大きな差異を認めなかった。

彼らはその時には神への従順のうちに歩んでいた。契約の箱は聖なる人々によってこのお方の表明された命令に従って担がれていた。そして主の万軍の将がこのお方の律法の箱の前を行かれた。そのとき、このお方のみ腕は彼らのために救出をもたらされた。しかし、今や彼らは神聖な勧告や権威に反対して、自分自身の計画に従っていた。契約の箱は、破滅の運命に定められていたベリアルの息子たちによって担がれていた。それでもなお、人々はサタンによってあまりにものぼせ上っていたために、贖罪所の下にある律法が彼らに敗北と災難と死を宣告しているときに、自分たちのために戦ってくれるよう神を説得できると思っていたのである!」(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 12 月 22 日)

「神は、彼らが契約の箱の中にある戒めを冒涜していながら、イスラエルに契約の箱、すなわちこのお方のご臨在の象徴に信頼することがいかに虚しいことであるかを示すために、彼らの敵にご自分の契約の箱が取り去られることをお許しになった。神は聖なる箱、すなわち彼らの自慢していた強さと自信を彼らから取り除くことによって、彼らを低くされるのであった。」(霊的賜物 4 a巻 106)

**b. この敗北の苦悩を、どの悲劇が際立たせましたか (サムエル記上 4:11, 15–22)。**

「主はご自分の民イスラエルの偽善を明らかにし、彼らの僭越を譴責して、彼らを厳しく懲らしめ、こうして歴史のページに、将来のすべての時代のために、ご自分の民だと公言する者の悪は罰せられずにはいないという証を残された。神のみ旨についての知識が大きいければ大きいほど、それを無視する者の罪は大きいのである。神は地上においてご自分のみ名を恐れさせ、尊ばせるために人に依存してはおられない。このお方はご自分の前に忠実さとへりくだりのうちに歩む人々の働きをお受入れになるが、ご自分に仕えると公言しながら、不義の道に従う人々はみな拒絶される。」(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1881 年 12 月 22 日)

**4. 神のみ前の説明責任**

**a. エリの家に下った裁きにおいて、歴史は繰り返す方法から、わたしたちはどの厳粛な警告に注意を払うべきですか（マタイ 7:19, 23; イザヤ 58:1）。**

「エリは優しく、愛情深く、親切で、神の奉仕とこのお方のみ事業の発展に真の関心を持っていた。彼は祈りにおいて力のある人であった。彼は神のみ言葉に対して反逆して立ち上がったことは一度もなかった。しかし、彼は足りなかった。彼は罪を譴責し、罪人に対して正義を実行するだけの品性の堅固さがなく、神はイスラエルを純潔に保つために彼を当てにすることがおできにならなかった。彼は自分の信仰に、正しい時に正しい場所で否と言うための勇気と力を加えなかった。罪は罪であり、義は義である。ラッパの警告の音が響かなければならない。わたしたちは恐ろしく邪悪な時代に生存している。神の礼拝は、義務のすべての持ち場においてはっきり目覚めた人がいない限り堕落する。だれにも利己的な安逸に夢中になっている時間はない。神の語られた一言でも、地に落ちることを許してはならない。

バトル・クリークにいるある人々は証の書を信じると公言するが、それらを足の下に踏みつけてきた。ほんのわずかな人しかそれを関心をもって読んでこなかった。しかしほとんどそれらに注意を払う人はなかった。自己、誇り、流行にふけり、神の礼拝に見せびらかしが混じっている。このお方は行動を起こす勇気の人を求めておられる。すなわち、偶像を打ち立てることや、ラッパのような声をあげず、民にその不法を、またヤコブの家にその罪を示さずに忌むべきことに加わることに関心を示さない人を求めておられる。」（教会への証4巻 517）

「セブンスデー・アドベンチストの中にいる誤れるものに警告や譴責が与えられていない理由は、彼らの生活が名目的諸教会の自称クリスチャンたちの生活よりも非難に値するからでもなければ、彼らの模範や彼らの行為が神の律法の要求に従おうとしない再臨信徒の模範や好意よりも悪いからでもなく、むしろ彼らには大きな光があるからであり、彼らの公言により、彼らが神の特別な選ばれた民として、自分たちの心に神の律法が記されたとの立場を取ってきたからである。」（同上 2 巻 452）

**b. ペリシテ人が自分の礼拝しない神の象徴を盗んだことによって呪われたとき、契約の箱を戻すまでにどれくらいかかりましたか。イスラエルが再びその聖なる象徴の価値を認めるまでに、どれくらいの期間がかかりましたか（サムエル記上 6:1; 7:1, 2）。**

## 木曜日　3月22日

**5. 憐れみの奇跡**

**a. サムエルはどの熱心な訴えを、イスラエルの民にしましたか。また、そのうるわしい結果は何でしたか（サムエル記上 7:3, 6）。**

「サムエルがイスラエルをさばき始めるや否や、その若い時でさえ、彼は民の会衆に、断食と祈り、そして神のみ前における深いへりくだりを呼びかけた。彼は神の口から出た自分の厳粛な証を担った。民はその時、自分たちの力がどこにあるのかを学び始めた。」（教会への証 4 巻 517）

**b. 神がへりくだったイスラエルに対して、どのように恵み深くあられたかということから、何を学ぶべきですか。わたしたちはなぜ彼らのように自分たちの心を探るべきなのですか（サムエル記上 7:7, 10, 12）。**

「現代の神の民の状態は、偶像礼拝のイスラエルの状態と似ている。クリスチャンの名を持っている多くの人々が主以外の神々に仕えている。わたしたちの創造主はわたしたちの最高の献身、わたしたちの第一の忠誠を要求しておられる。わたしたちの神への愛を減じたり、このお方への正当な奉仕を妨げたりする傾向のあるものは何でも、それによって偶像となる。ある人々には、自分の土地、自分の家屋、自分の商品が偶像である。ビジネスの事業は熱意と精力をもって遂行されるが、その一方で神の奉仕は二次的なものとされている。家庭礼拝はなおざりにされ、密室の祈りは忘れられている。多くの人々は自分の同胞を公正に扱っていると主張するが、そうすることによって自分のすべての義務を果たしていると感じているようである。しかし、十誡の後ろの 6 条を守ることで充分ではない。わたしたちは心を尽くして主なる自分の神を愛さなければならない。すべての規則への従順に満たないものは何も、すなわち自分の同胞への愛と等しく、神への最高の愛に満たないものは何も、神聖な律法の要求を満たすことはできない。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1882 年 1 月 26 日）

## 金曜日　3月23日

**個人的な復習問題**

**1. 譴責に服するだけでは、なぜ十分ではないのですか。**
**2. 契約の箱があることが、なぜ戦いにおいて役に立たなかったのですか。**
**3.「イカボデ」という言葉の意味は、イスラエルの歴史において、何でしたか。**
**4. エリは祈りの人でしたが、彼の霊性には何が不足していましたか。**
**5. わたしたちは、どのように―イスラエルのように―「ミズパ」の経験が今日必要ですか。**

# イスラエルの最後の士師

**「サムエルは言った、「主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」（サムエル記上 15:22）**

「サムエルは、忠実と服従と献身の生涯を送ったために、サウルよりはいっそう大きな影響を及ぼし……たのである。」（人類のあけぼの下巻 345）

推奨文献：　人類のあけぼの下巻 253, 281

## 日曜日　3 月 25 日

**1. 勝利のための秘訣**

**a. サムエルが国を裁いた時代のイスラエルの経験から、わたしたちはどの見識を学ぶことができますか（サムエル記上 7:12, 17）。**

「今日、昔のイスラエルが経験したような真の心の宗教のリバイバルが必要である。わたしたちは、彼らのように、悔い改めにふさわしい実―イエスが心のうちを治めて下さるように汚れた心の宮を清めて、自分たちの罪を捨てること―を結ばなければならない。……

神に帰りたいと思うすべての人が最初にとらなければならない一歩は悔い改めである。だれもこの働きをわたしたちのためにすることはできない。わたしたちは個々に神のみ前に自分の魂をへりくだらせ、自分の偶像を捨てなければならない。わたしたちは自分にできるすべての事をなしたとき、主はご自分の救いをわたしたちのために明らかにしてくださる。

そして天の光がわたしたちの闇を晴らしたとき、サムエルのように神への記念を建てることによって感謝を表そう。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1882 年 1 月 26 日）

**b. 終わりの時まで、なぜ神の民だと公言する人々に熱心な訴えがなければならないのですか（イザヤ 2:17–22）。**

**2. 重要不可欠な段階**

**a. 神の民の失墜の原因は何でしたか（ホセア 4:6）。民の間に永続的な霊的成長をもたらすために、サムエルは何をしましたか。**

「青年教育の施設として、預言者の学校が建てられた。もし、青年が、神の言葉の真理をもっと深くさぐり、上からの知恵を求めて、イスラエルの教師になろうと望むならば、彼らは、こうした学校にはいることができた。預言者の学校は、腐敗が広がるのを防ぐ防壁としてサムエルが創立したもので、青年の道徳的、霊的幸福に貢献し、指導者や助言者として、神をおそれて行動する資格のある人物を養成して、国家の将来の繁栄に資するためであった。サムエルは、この目的を達成するために、神をおそれ、知的で勤勉な青年を多く集めた。彼らは預言者の子と呼ばれた。彼らが神と交わり神の言葉と神のみわざを学んだときに、彼らの生来の賜物に天の知恵が加えられた。教師は、神の真理によく通じているばかりでなくて、自分たち自身が神との交わりを経験し、神の霊の特別な賜物を受けた人々であった。彼らは、学識と信仰の両面において、人々の尊敬と信頼を勝ち得ていた。

こういう学校は、サムエルの時代に二つあって、一つは、預言者の故郷のラマにあり、もう一つは、そのとき箱が置かれていたキリアテ・ヤリムにあった。その後、ほかにも学校が設立された。」（人類のあけぼの下巻 255）

**b. このような学校の基調は何であるべきですか（イザヤ 34:16; 詩篇 12:6）。**

「わたしたちは、わたしたちの青年が科学において教育されるばかりでなく、彼らが絶えず自分の前に神の律法の知識を得、それらに従順を捧げる重要性を保ってきたことを、全世界が知ることを望んでいる。」（ｶﾚｯｼﾞ・ﾚｺｰﾄﾞ 1878 年 1 月 1 日）

「今日の教育家が古代のヘブルの学校から、何か有益な教訓を学ぶことができないものであろうか。人間を創造されたかたは、そのからだと心と魂の発達のために必要なものをお備えになった。であるから、教育の真の成功は、人間が創造主の計画を忠実に実行するか否かにかかっている。」（人類のあけぼの下巻 257, 258）

**3. 失望させられたサムエル**

**a. サムエルはその老年にどのような失望に直面しましたか（サムエル記上 8:1–3）。ある程度、彼はどのように不正に取り扱われましたか。**

「サムエルは、士師、預言者、祭司という三つの職責を神からゆだねられて、彼の民の幸福のために、たゆまず熱烈な無我の精神をもって働いた。そして、国家は、彼の賢明な支配のもとに栄えたのである。秩序は回復し、信仰は深まり、不平の精神は一時おさまった。しかし、預言者は、年を取るにつれて政務を他の者にゆだねなければならなくなった。そして、彼は自分のふたりのむすこを彼の助手に任命した。サムエルが、ラマにおける任務を継続する一方、青年たちは、ベエルシバに配置されて、国土の南の国境付近で、人々の裁判を行なった。

サムエルは、国民一同の賛成のもとに、むすこたちを職務に任命したのであった。」（人類のあけぼの下巻 266）

「人々の間で行なわれた悪事の数々は、サムエルに知らされなかった。もし、むすこたちの悪行が彼に知らされたならば、彼は、すぐに彼らを解任したことであろう。しかし、人々の望んだことは、それではなかった。サムエルは、彼らの真の動機が不満と自尊心で……あることを悟った。」（人類のあけぼの下巻 267）

**b. 悪が正されることを要求する代わりに、民はサムエルから何を求めましたか。彼はどのように答えましたか（サムエル記上 8:4–6）。**

「老預言者は、その要求を自己に対する非難、また、彼を除こうとする直接行動であると考えた。しかし、彼は、自分の気持ちを表面にあらわさなかった。彼は、譴責の言葉を言わなかった。彼は、このことについて祈り、主に訴えて、ただ主からの勧告を求めたのである。」（同上）

**4. だれがわたしたちの王となるべきか?**

**a. 王を求める民の要求に、どのように答えるようにと主がサムエルにお命じになりましたか。それはなぜですか(サムエル記上 8:7, 18)。**

「神の忠実なしもべを軽べつして拒絶する者は、人間だけでなくて、彼を送られた主に対する侮りを示すのである。軽べつされたのは、神の言葉であり、神の譴責と勧告であった。拒否されたのは神の権威であった。」(人類のあけぼの下巻 268)

**b. 神はこの経験から、後の預言者たちを通して説明されているように、わたしたちが時代を越えて変わらないどの原則を探りだすよう望んでおられますか(ホセア 13:11; エゼキエル 14:3, 8)。**

「主は、イスラエルが王の統治を受けることを、預言者によって預言しておられた。しかし、この政治形態が最善であって、神のみこころにかなったものであるというわけではなかったのである。……人々が神の勧告を求めず、または、神が啓示されたみこころに反して自分かっての道を選び、それに付随した苦い経験にあうとき、彼らが自分たちの愚かさを自覚して、罪を悔い改めるに至るために、神はしばしば彼らの願いを許される。人間の誇りと知恵は、危険な道案内となる。神のみこころに反して心が欲求するものは、ついには祝福ではなくてのろいとなるのである。」(同上 268, 269)

**c. 最初の王、サウルが任命された後、神はどのように憐れみ深くも状況を最善にしようとされましたか(サムエル記上 10:1, 6, 9; 15:17)。**

**d. ついに、神は、最初の王に対して、何をすることを余儀なくされましたか。それはなぜですか(サムエル記上 13:14; 15:22, 23; 使徒行伝 13:20, 22)。このお方は、今日ご自分の民を、どのように治めておられますか(エペソ 4:11, 16)。**

「神はセブンスデー・アドベンチスト教会において、体組織全体を支配したり、働きのどこかの部門を支配したりするような王のような権力を置いてはこられなかった。このお方は指導者の重荷をわずかな人の上に与えてはこられなかった。責任は多くの有能な人々の間で広く配分されるのである。」(教会への証 8 巻 236)

## 木曜日　3月29日

**5. 信心深い遺産**

**a. イスラエルの歴史において、最も悲しい日々の一つを挙げなさい。またなぜそれほど心を裂くようなものであったのかを説明しなさい（サムエル記上 25:1; 詩篇 116:15）。**

「サムエルの死は、イスラエルの国にとって、とりかえしのつかない損失であると思われた。偉大で善良な預言者、すぐれた士師が世を去ったので、人々は心から深く悲しんだ。……

人々は、サウルの生涯とサムエルの生涯とを比較してみたときに、彼らが回りの国々と異なっていてはいけないと言って、王を要求したことがどんなまちがいであったかを知った。多くの者は、社会情勢が急速に不信仰で無神的になっていくのを見て驚いた。……

国家は、預言者の学校の創立者と校長を失ったが、それだけではなかった。国家は、人々が大きな問題をかかえて相談に行っていた人、人々の幸福のために常に神にとりなしをしていた人を失った。サムエルのとりなしは彼らに安定感を与えた。『義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである』（ヤコブ 5:16）。……

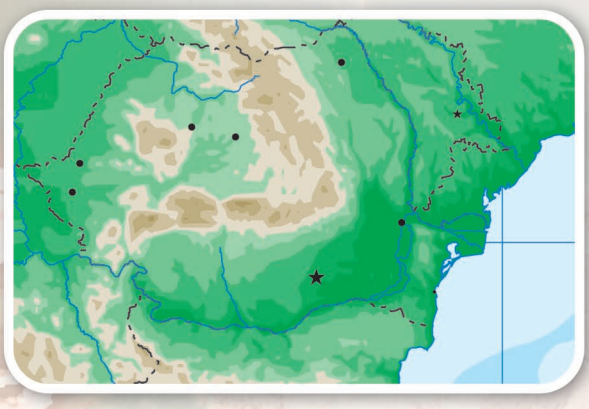
国家が内紛に苦しみ、サムエルの沈着で敬虔な勧告が最も必要であると思われたときに、神は、彼の老僕に休息をお与えになった。人々は、彼の休息の場をながめて、自分たちが彼を支配者として受け入れなかった愚かさを思い出して、痛く後悔した。彼は、天と密接な交わりを保って全イスラエルを主のみ座に結びつけるように思われたのであった。彼らに神を愛し、服従することを教えたのは彼であった。」（人類のあけぼの下巻 345, 346）

## 金曜日　3月30日

**個人的な復習問題**

**1. サムエルはどのようにイスラエルの士師として自分の任期を賢明に始めましたか。**
**2. 何が神の国家の将来を明るくする彼の先見を明らかにしましたか。**
**3.　エリもサムエルも問題の息子がいましたが、何が違っていましたか。**
**4. わたしたちが祈るとき、神のみ旨に完全に明け渡すことが、なぜそれほど重要なのですか。**
**5. わたしたちはなぜ、サムエルのような指導者たちのために、より深く感謝すべきなのですか。**

# 第一安息日献金



## 10月7日

アルゼンチンにある南アメリカ
南部の本部改修のために
(4ページ参照)

## 11月4日

伝道地のための文書
(25ページ参照)

## 12月2日

ネパールの礼拝堂のために
(46ページ参照)